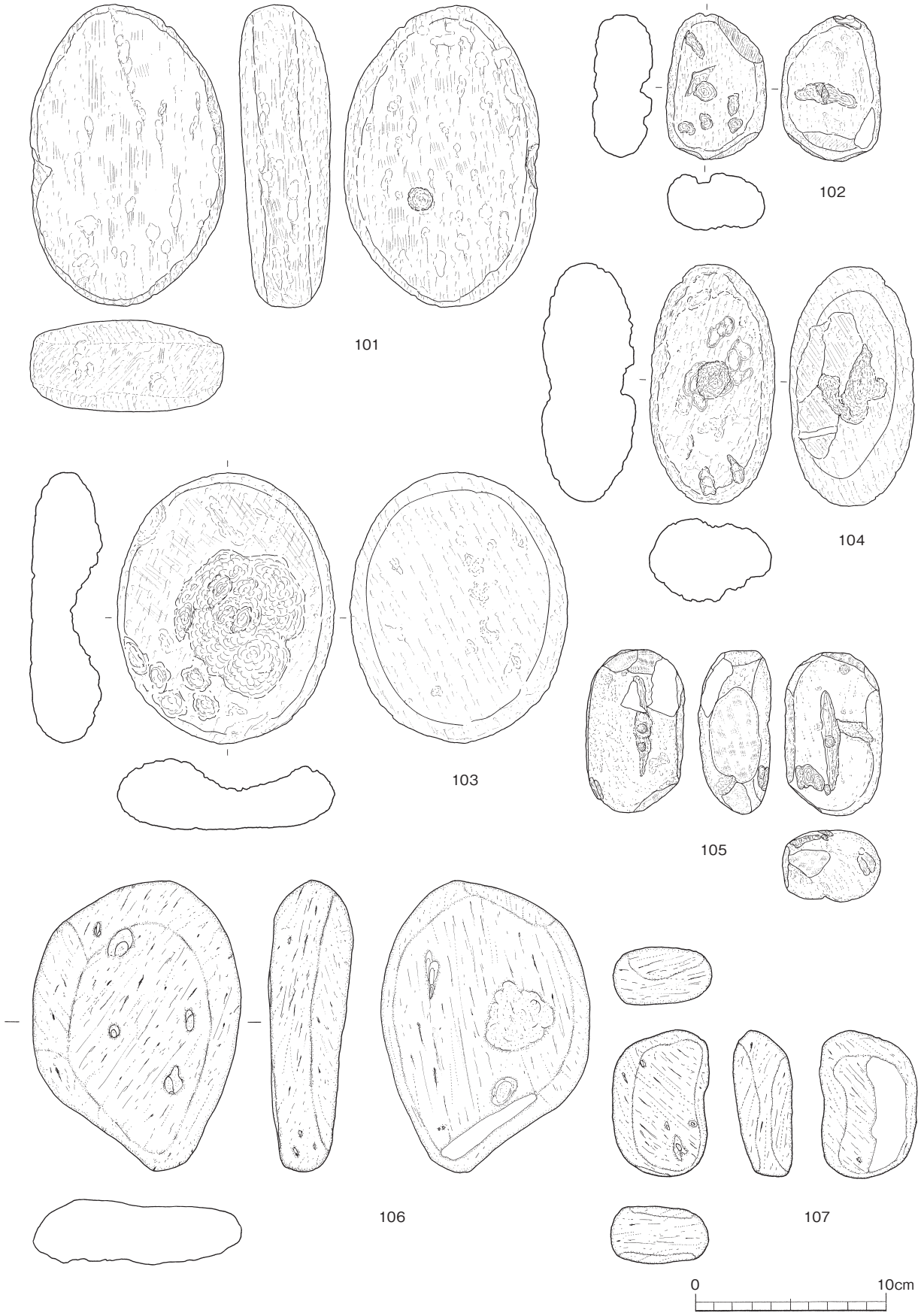
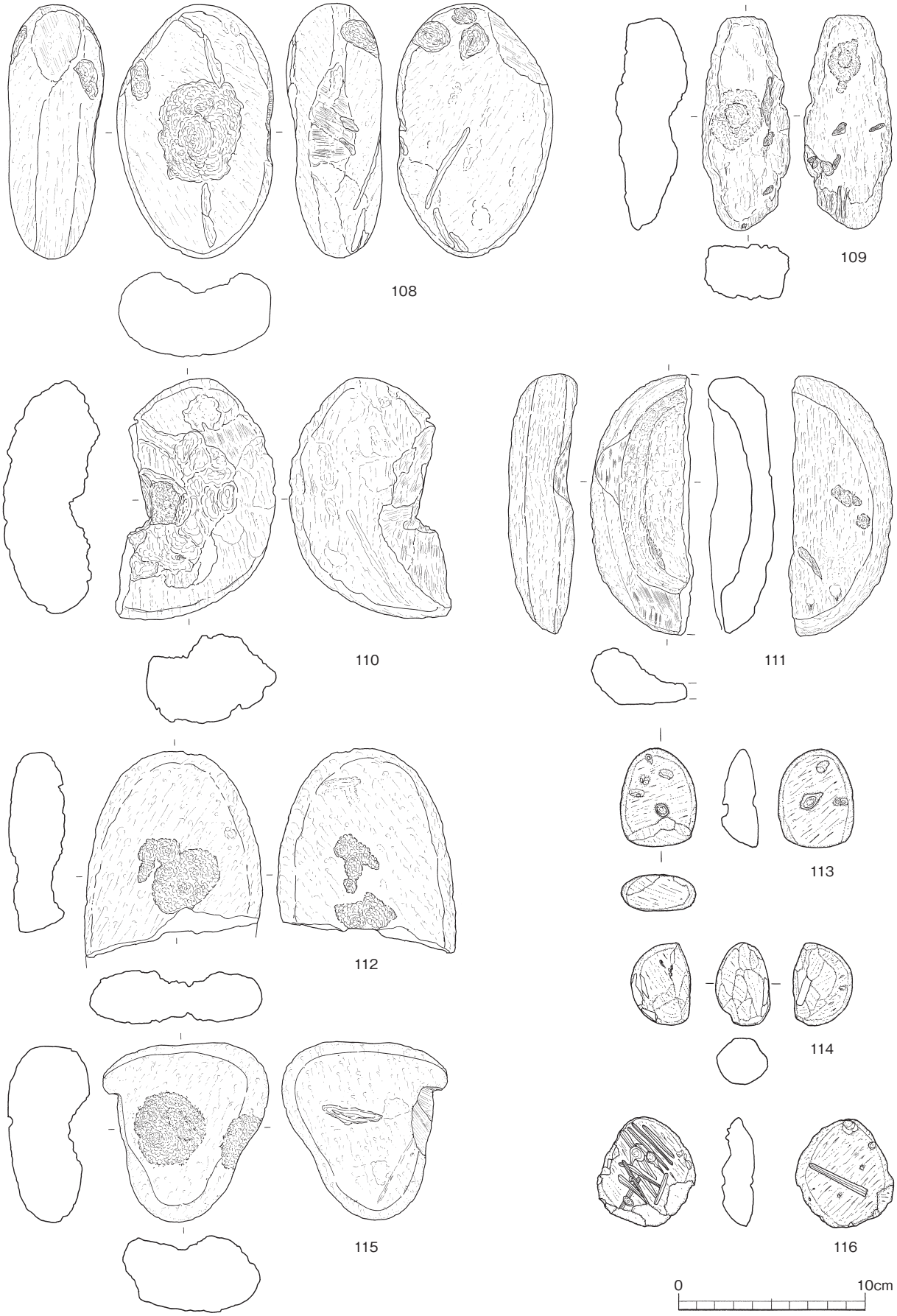


第53図　包含層出土の石器（16）



第54図　包含層出土の石器（17）

第10表　縄文時代包含層出土石器観察表（1）

挿図	番号	器種	石材	区	層	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
						cm	cm	cm	g	
36	1	スクレイパー	頁岩	C41	Ⅳ	5	10.8	2	110	—
	2	スクレイパー	チャート	BC3～5	Ⅳ	6.5	7.6	1.2	40	—
37	3	磨製石斧	ホルンフェルス	C10	Ⅳ	13.1	6.3	2.3	210	—
	4	礫器	砂岩	C7	Ⅳ	12.4	15.4	2.1	340	—
	5	礫器	砂岩	B5	Ⅳ	19.5	8.8	2.7	700	—
	6	敲石	ホルンフェルス	B5	Ⅳ	27.5	7	3.3	640	—
38	7	凹石	凝灰岩	B28	Ⅳ	26.3	15.5	6.4	3500	—
	8	石皿	砂岩	5T	Ⅳ	13.5	12.4	7.1	1220	—
39	9	打製石鏃	黒曜石 OB4	C32	Ⅲa	1.1	1.3	0.2	0.26	—
	10	打製石鏃	黒曜石 OB4	C32	Ⅲa	1.5	1.2	0.25	0.36	—
	11	打製石鏃	安山岩 AN2	C31	住居７号	1.6	1.5	0.3	0.62	—
	12	打製石鏃	安山岩 AN2	C30	Ⅲa	1.5	1.6	0.3	0.73	—
	13	打製石鏃	安山岩 AN2	C30	Ⅲa	1.8	1.75	0.3	0.83	—
	14	打製石鏃	黒曜石 OB4	D22	Ⅲa	1.8	1.7	0.3	0.66	—
	15	打製石鏃	玉髄	C25	Ⅱ	1.65	1.5	0.25	0.45	—
	16	打製石鏃	安山岩 AN2	B34	Ⅲa	2.6	2.2	0.35	1.39	—
	17	打製石鏃	黒曜石 OB4	C29	Ⅲa	2	1.55	0.3	0.44	—
	18	打製石鏃	チャート６	BC16	住居３号	2.3	1.3	0.45	1.15	—
	19	打製石鏃	黒曜石 OB6	C29	Ⅲa	2.75	1.75	0.35	1.12	—
	20	打製石鏃	黒曜石 OB2	B25	Ⅲa	1.05	1	0.25	0.23	—
	21	打製石鏃	黒曜石 OB6	B22	Ⅲb	2.2	2.7	0.5	1.46	—
	22	打製石鏃	安山岩 AN2	B24	Ⅲb	2.25	2.3	0.25	0.9	—
	23	打製石鏃	安山岩２	C30	Ⅲa	2.2	1.7	0.3	1	—
	24	打製石鏃	頁岩	C21	Ⅲa	1.9	1.5	0.3	0.88	—
	25	打製石鏃	玉髄	B30	Ⅲa	2.1	1.6	0.5	1.25	—
	26	打製石鏃	安山岩 AN2	C32	Ⅲa	1.4	1.3	0.2	0.32	—
	27	打製石鏃	黒曜石 OB3	B24	Ⅱ	1.3	1.1	0.4	0.58	—
	28	小型両面調整器	玉髄 CC1	C31	埋土	1.5	1.9	0.5	1.41	—
	29	加工痕薄片	玉髄	BC31	溝６号	1.4	1.2	0.5	0.92	—
	30	加工痕薄片	黒曜石 OB2	B30	Ⅲa	2.5	2.4	1.2	5.38	—
	31	分割礫	黒曜石 OB2	C27	Ⅲa	2.15	2.2	1.7	7.29	—
	32	石核	黒曜石 OB2	C29	Ⅲa	2.9	3	2.2	10.85	—
	33	石核	黒曜石 OB2	B22	Ⅲb	3.1	3.9	4.5	42.88	—
40	34	スクレイパー	ホルンフェルス	B33	Ⅲa	7	4	1.1	25	—
	35	スクレイパー	チャート	C28	Ⅲa	3.7	5.2	1.55	25	—
	36	スクレイパー	サヌカイト	B22	Ⅲa	4.3	5.5	1.1	25	—
	37	スクレイパー	玉髄	C30	Ⅲa	4.7	6.7	1	35	—
41	38	スクレイパー	ホルンフェルス	C23	Ⅲa	9.6	18.8	1.1	180	—
42	39	スクレイパー	ホルンフェルス	C18	Ⅲa	8.9	13.7	1.3	115	—
43	40	スクレイパー	ホルンフェルス	C30	Ⅲb	3	7.9	0.6	10	—
	41	角錐状石器	玉髄	一括	Ⅲa	2.9	1.5	1.15	4.17	—
	42	微細剥離痕剥片	黒曜石 OB2	C35	Ⅱ	3.25	2.3	0.7	4.97	—
	43	微細剥離痕剥片	黒曜石 OB2	C30	Ⅲa	2.85	2.7	0.5	3.28	—
	44	微細剥離痕剥片	黒曜石 OB4	C23	Ⅲa	4	3	1.1	8.92	—
	45	微細剥離痕剥片	黒曜石 OB4	B15	Ⅲa	5	2.6	0.9	6.08	—
	46	微細剥離痕剥片	黒曜石	一括	住居２号	3.2	3.3	0.9	8.19	—
44	47	打製石斧	ホルンフェルス	B22	Ⅲa	18.6	7.7	2.4	410	—
	48	打製石斧	ホルンフェルス	C30	Ⅲa	17.3	7.6	1.9	260	—
	49	打製石斧	ホルンフェルス	C34	Ⅲa	10.35	6.8	1.4	115	—
	50	打製石斧	ホルンフェルス	B22	Ⅲa	12.5	6	2.3	230	—
	51	打製石斧	ホルンフェルス	集中７号	Ⅲa	10.4	5.4	1.2	90	—
	52	打製石斧	ホルンフェルス	C32	Ⅲa	12.1	6.4	1.4	150	—
	53	打製石斧	ホルンフェルス	C1	Ⅲa	9.2	6.4	1.8	140	—
	54	打製石斧	ホルンフェルス	B33	Ⅲa	7.5	5.8	1.4	80	—
45	55	打製石斧	ホルンフェルス	B5	Ⅲa	8.3	5.7	1.1	75	—
	56	打製石斧	ホルンフェルス	A21	Ⅲa	9.4	7.4	2	170	—
	57	打製石斧	ホルンフェルス	B20	Ⅲa	8.4	7.1	1.3	85	—
	58	打製石斧	ホルンフェルス	C21	Ⅲa	6.75	8.1	1.7	120	—
	59	打製石斧	ホルンフェルス	C21	Ⅲa	21.1	10.5	1.9	385	—
	60	打製石斧	ホルンフェルス	B21	Ⅲa	8.2	5.6	1	60	—
46	61	磨製石斧	ホルンフェルス	不明	Ⅲa	16.8	7.2	4.1	710	—
	62	磨製石斧	ホルンフェルス	B34	Ⅲa	4.3	3.7	1.8	35	—
	63	砥石	ホルンフェルス	B24	Ⅱ	5.5	3.9	1.05	35	—
	64	砥石	ホルンフェルス	C21	Ⅲa	7.9	3.7	3.7	135	—
	65	礫器	ホルンフェルス	C42	Ⅲb	10.4	14.8	2.1	430	—
	66	礫器	ホルンフェルス	C17	Ⅲa	5.1	13.2	2.1	220	—
	67	礫器	ホルンフェルス	C21	Ⅲa	8.9	12.6	3.9	470	—
47	68	礫器	安山岩	B19	Ⅲa	10.7	10.2	3.15	420	—
	69	礫器	安山岩	B21	Ⅲa	15.7	9.4	4.3	840	—
	70	磨石	ホルンフェルス	B20	Ⅲb	12.8	9.2	4.6	930	—
	71	磨石	安山岩	C21	Ⅲa	6	5.65	2.35	140	—
	72	磨石	安山岩	B21	Ⅲa	12.1	10.6	3.6	600	—

第 11 表　縄文時代包含層出土石器観察表（2）

挿図	番号	器種	石材	区	層	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
						cm	cm	cm	g	
48	73	磨石	安山岩	D21	Ⅲa	11	8.2	5.4	610	—
	74	磨石	安山岩	A21	Ⅲa	12.4	8.3	5	560	—
	75	磨石	安山岩	C22	Ⅲa	9.8	9.5	6.1	800	—
	76	磨石	安山岩	C21	Ⅲa	10.3	6.2	2.7	310	—
	77	磨石	安山岩	C25	Ⅲa	10.9	8.9	4.6	600	—
	78	磨石	安山岩	C21	Ⅲa	10.7	7.8	3.75	500	—
	79	磨石	安山岩	不明	Ⅲa	7.4	7.4	6.1	370	—
	80	磨石	安山岩	B22	Ⅲa	6.25	5	4.2	160	—
49	81	磨石	安山岩	C22	Ⅲa	9	5.5	3.5	250	—
	82	敲石・ハンマー	安山岩	C32	Ⅲa	18.1	7.8	6.4	1380	—
	83	敲石・ハンマー	安山岩	B24	Ⅲb	8.6	4.15	3.1	160	—
	84	敲石・ハンマー	ホルンフェルス	B34	Ⅲa	8.6	5	3	170	—
	85	凹石	安山岩	B21	Ⅲa	12.7	8.5	6	805	—
	86	凹石	ホルンフェルス	B19	Ⅲa	21.3	5.3	3.3	650	—
50	87	凹石	砂岩	B21	Ⅲa	20	14.3	8.8	4200	—
	88	台石	安山岩	B22	Ⅲb	13.6	10.3	5.6	1220	—
	89	石皿	安山岩	C23	Ⅲa	17.7	21	7.5	3800	—
51	90	石皿	安山岩	C21	Ⅲa	15.7	17	5.3	2200	—
	91	石皿	安山岩	B21	Ⅲa	15.1	11	7.1	2100	—
	92	石皿	安山岩	B20	Ⅲa	15.8	13.7	8.3	1900	—
52	93	石皿	安山岩	B25	Ⅲa	14.9	10.5	6.6	1300	—
	94	砥石	ホルンフェルス	B22	Ⅲa	9.2	6	1.2	155	—
	95	砥石	安山岩	C22	Ⅲa	6.5	3.2	1.65	50	—
	96	砥石	安山岩	C22	Ⅲa	5.5	4.4	1.4	70	—
	97	砥石	砂岩	C31	Ⅲa	22.1	11	7.6	2100	—
	98	砥石	ホルンフェルス	D23	Ⅲa	19.2	7.7	2	600	—
	99	紡錘車	ホルンフェルス	C37	Ⅱ	4.7	4.7	0.7	30	—
	100	石包丁	頁岩	B15	Ⅲa	3.3	4.6	0.5	10	—
53	101	軽石製品	軽石	F31	Ⅲa	15.9	10.3	4.8	210	—
	102	軽石製品	軽石	B20	Ⅲa	12.6	6.6	4.4	116.8	—
	103	軽石製品	軽石	C21	Ⅲa	14.3	11.5	3.7	174.1	—
	104	軽石製品	軽石	B20	Ⅲa	8.6	5.2	3.8	37.9	—
	105	軽石製品	軽石	B21	Ⅲa	10.2	7.3	2.2	500	—
	106	軽石製品	軽石	B22	Ⅲa	10.3	6.9	4.1	109.6	—
	107	軽石製品	軽石	D22	Ⅲa	7.7	5.3	3	45.5	—
54	108	軽石製品	軽石	B21	Ⅲa	13.7	8.5	4.6	165.8	—
	109	軽石製品	軽石	C21	Ⅲa	11.5	4.7	3	45.4	—
	110	軽石製品	軽石	D21	Ⅲb	13.9	5.5	3	62.8	—
	111	軽石製品	軽石	C22	Ⅲb	9.6	8.9	4.1	74.6	—
	112	軽石製品	軽石	B21	Ⅲb	11.1	9.6	2.9	101.4	—
	113	軽石製品	軽石	C22	Ⅲb	7.1	5.4	2.6	21.78	—
	114	軽石製品	軽石	B21	Ⅲb	13	8.6	4.8	147.3	—
	115	軽石製品	軽石	A2	Ⅲb	7.9	7.1	2.5	37.7	—
	116	軽石製品	軽石	C23	Ⅲb	6	4.3	3.3	30.4	—

第２節　弥生時代の調査

弥生時代の遺構は検出されなかったが，甕形土器や壺形土器が出土した。

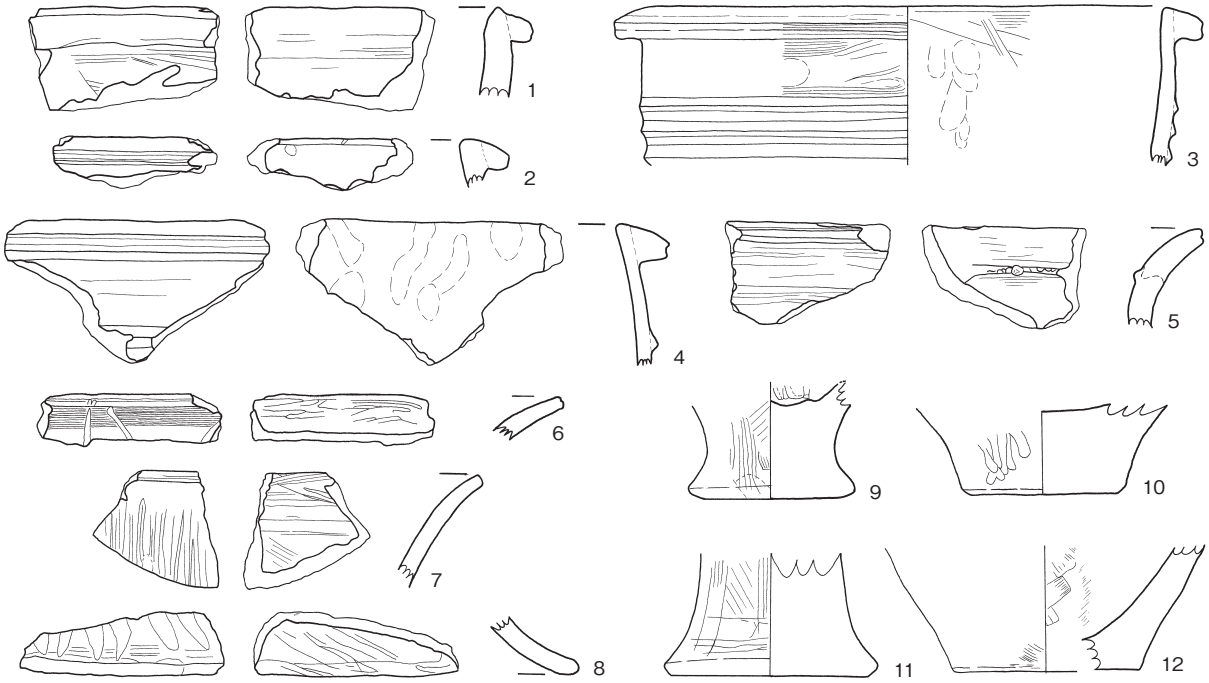
弥生土器（第55図　１～12）

１甕形土器

１，２は「Ｌ」字口縁部をもつものである。１の器面調整はヨコナデで色調は内面が灰茶褐色で，外面は煤付着で黒色である。胎土は石英，長石，角閃石がみられ，焼成は良い。２の器面調整はヨコナデで，色調は灰茶褐色である。胎土は石英，長石，角閃石がみられ，焼成は良い。３は「Ｌ」字口縁部をもつもので３本の断面三角突帯がみられる。器面調整はヨコナデで，色調は明茶褐色である。胎土は金雲母，石英，長石，角閃石がみられ，焼成は良い。４は「Ｌ」字口縁部をもつもので，１本の断面三角突帯がみられる。器面調整はヨコナデで，内側に指圧痕もみられる。色調は明茶褐色である。胎土は石英，長石，角閃石がみられ，焼成は良い。９は充実高台の底部である。器面調整はタテナデで，色調は赤茶褐色である。胎土は金雲母，石英，長石，角閃石がみられ，焼成は良い。11は充実高台の底部である。器面調整はタテナデで，色調は茶褐色である。胎土は金雲母，石英，長石，角閃石がみられ，焼成は良い。

２壺形土器

５は頸部で締まり，外弯するものである。内側に突帯を１本有する。器面調整はヨコナデで，色調は灰茶褐色である。胎土は金雲母，石英，長石，角閃石がみられ，焼成は良い。８は蓋である。器面調整はタテミガキで，色調は赤茶褐色である。胎土は金雲母，石英，長石，角閃石がみられ，焼成は良い。12は厚手底の底部である。器面調整はミガキで，色調は赤茶褐色である。胎土は石英，長石，角閃石がみられ，焼成は良い。



第55図　弥生土器

0　10cm

第12表　弥生時代出土土器観察表

挿図	番号	出土区	層位	器種	部位	口径	底径	器高	調整・文様		色調		胎土	備考
						cm	cm	cm	外面	内面	外面	内面		
55	1	C-2	Ⅲa	甕	口縁部	－	－	－	ナデ	ナデ	黒	灰茶褐	石英・長石・角閃石	煤付着
	2	B-20	Ⅱ	甕	口縁部	－	－	－	ナデ	ナデ	灰茶褐	灰茶褐	石英・長石・角閃石	－
	3	D-21	Ⅲa	甕	口縁部	27	－	－	ナデ	ナデ	明茶褐	明茶褐	金雲母・石英・長石・角閃石	断面三角突帯
	4	B-21	Ⅲa	甕	口縁部	－	－	－	ナデ	ナデ・指圧痕	明茶褐	明茶褐	石英・長石・角閃石	断面三角突帯
	5	B-22	Ⅲa	壺	口縁部	－	－	－	ナデ	ナデ	灰茶褐	灰茶褐	金雲母・石英・長石・角閃石	－
	6	B-20・22	Ⅲa	高坏	口縁部	－	－	－	ナデ・暗文	ミガキ	赤茶褐	赤茶褐	石英・長石・角閃石	－
	7	C-1	Ⅲa	高坏	口縁部	－	－	－	暗文	－	黒褐	黒茶褐	石英・長石・角閃石	－
	8	11T	Ⅲa	高坏	蓋	－	－	－	ミガキ・暗文	ミガキ後ナデ	赤茶褐	赤茶褐	石英・長石・角閃石・金雲母	煤付着
	9	C-21	Ⅲa	甕	底部	－	6.6	－	ナデ	ナデ	赤茶褐	赤茶褐	金雲母・石英・長石・角閃石	－
	10	C-21	Ⅲa	壺	底部	－	5.8	－	ナデ	ナデ	黒茶褐	黒茶褐	金雲母・石英・長石・角閃石	－
	11	D20	Ⅲa	甕	底部	－	7.8	－	ナデ	ナデ	茶褐	茶褐	金雲母・石英・長石・角閃石	－
	12	－	－	壺	底部	－	7.4	－	ミガキ	ミガキ	赤茶褐	赤茶褐	石英・長石・角閃石	－

第３節　古墳時代の調査

１調査の方法と概要

古墳時代の調査は，10m四方のグリッドを設定し，Ⅲ層を中心に全面調査を行った。古墳時代の遺構は，Ⅲ層で検出し，遺物はⅢ層上部（Ⅲa層）からⅢ層中部（Ⅲb層）で大半が出土する傾向を確認している。

遺構は，竪穴住居跡，円形周溝状遺構，溝状遺構，土坑，不明遺構が検出された。遺物は成川式の甕形土器，壺形土器，高坏，手捏土器等が出土した。

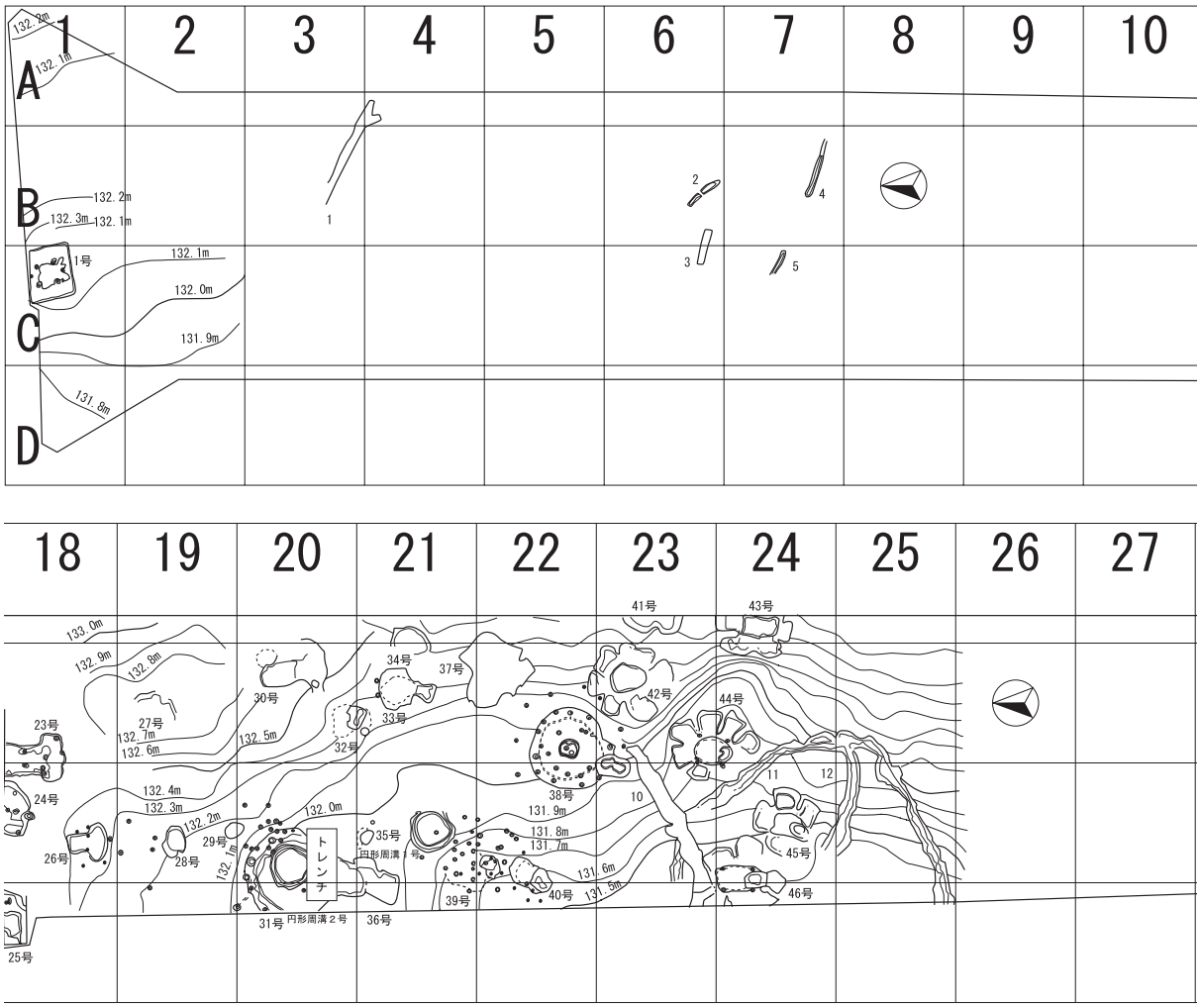
２古墳時代の遺構

竪穴住居跡

竪穴住居跡は遺跡北側の１区と中央部にあたる，15区～25区と南側にあたる34区～36区で63軒が検出された。19区～25区の調査範囲では，48軒を検出し遺跡全体で検出した竪穴住居跡の76％を占める。調査区の中では，Ⅱ層～Ⅲ層の上部が削平を受けている部分が多くあり，その中で平面形が，方形や楕円形，不定形のものもあったが，床面部分に硬化面が明瞭に残存しているものや，床着遺物を確認したものは，竪穴住居跡として発掘調査時より取り扱った。したがって，本報告書ではこれらの遺構に関しては，竪穴住居跡として取り扱い報告する。

竪穴住居跡については，複数年にわたって発掘調査が実施されており，同一の竪穴住居跡を複数年かけて調査しているものや同一の竪穴住居の一部を，別の年度に調査したものもある。その中で，同一の住居跡と判断したものは，図面上で復元して提示してある。

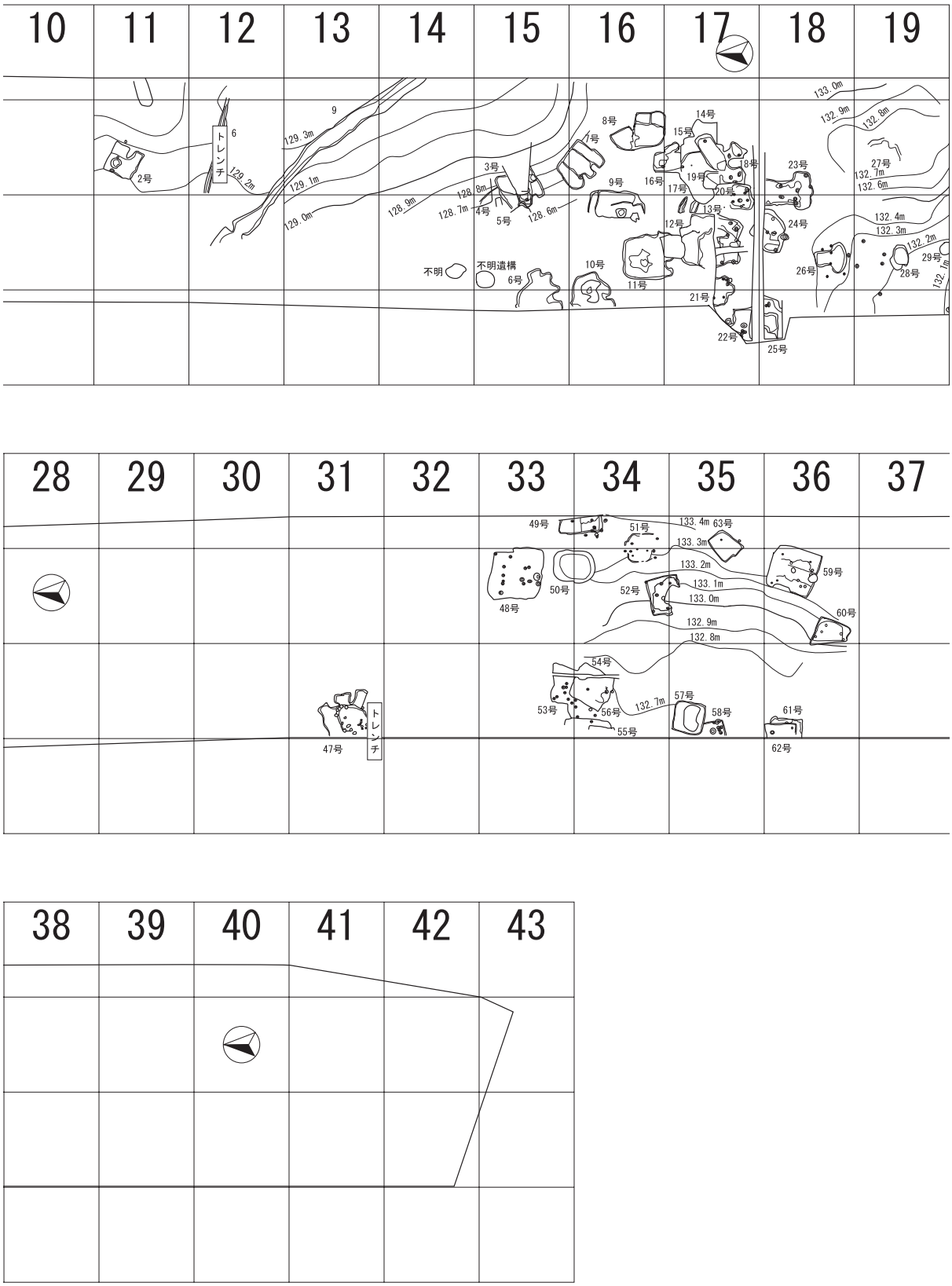
次に提示する表が，今回報告する竪穴住居跡の一覧である。



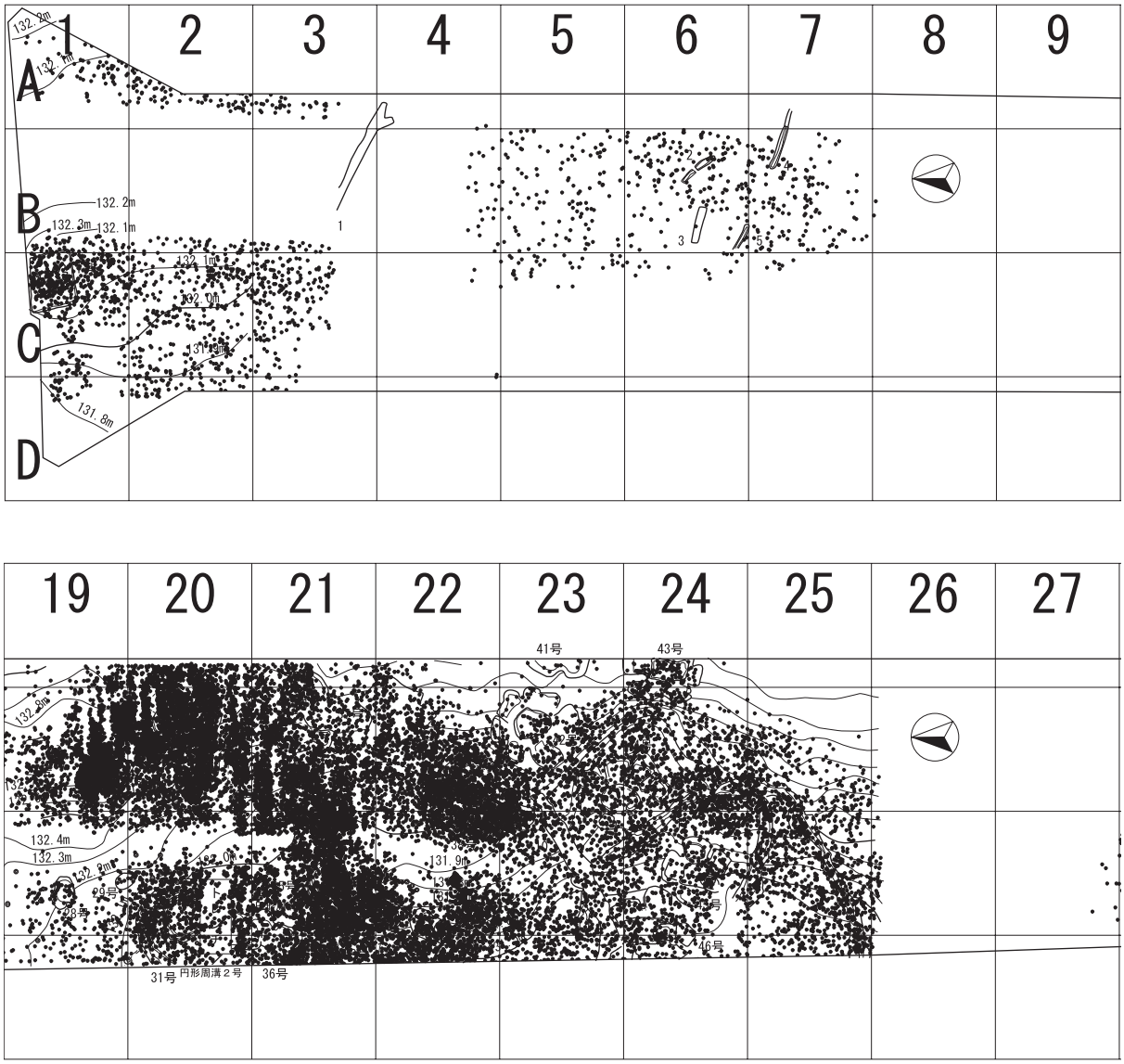
第56図　古墳時代の地形図及び遺構位置図（１）　1：625

第13表　竪穴住居跡一覧表

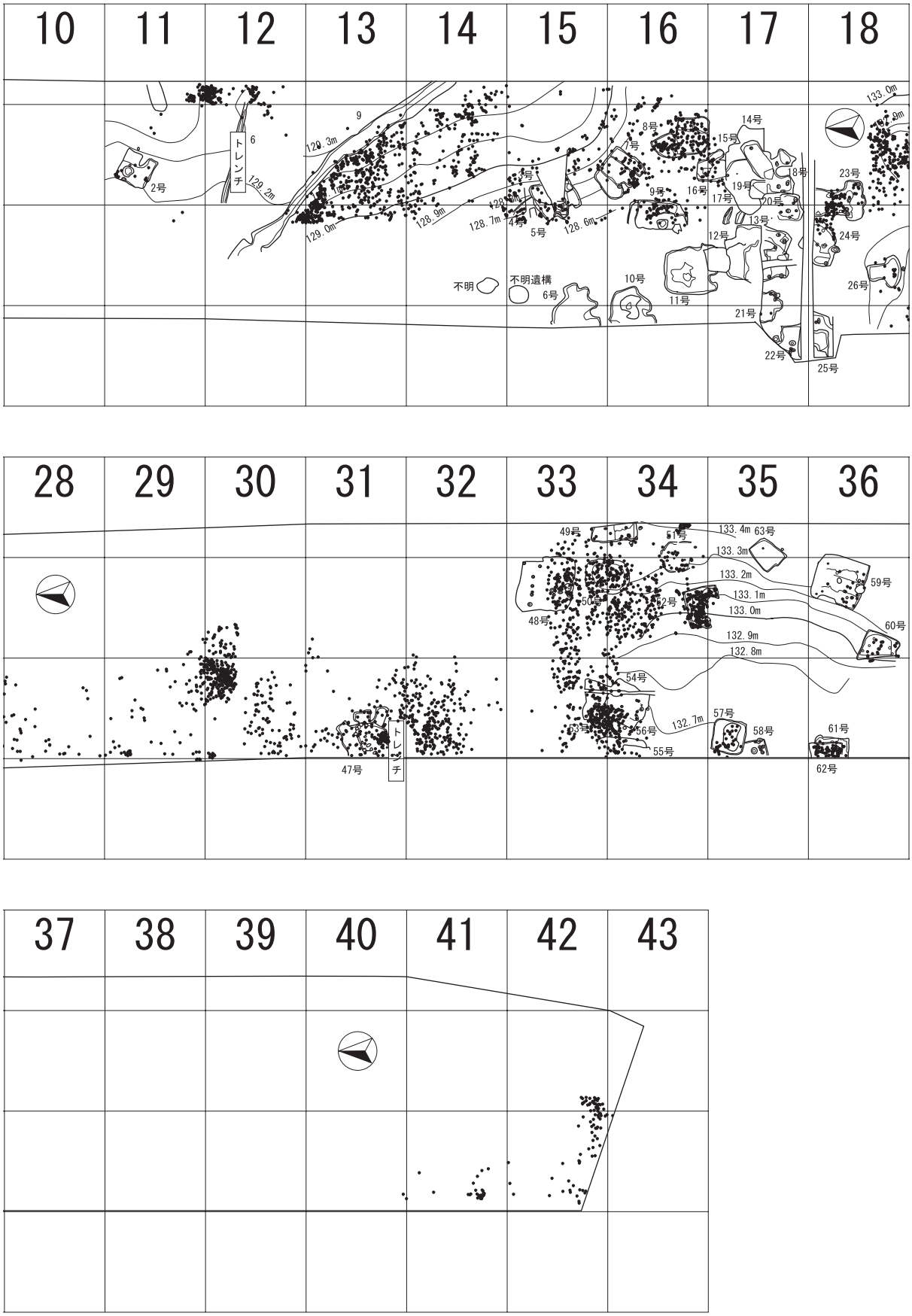
遺構名	区	層	遺構名	区	層	遺構名	区	層
1号竪穴住居跡	B・C-1	Ⅲa	22竪穴住居跡	D-17・18	Ⅲa	43号竪穴住居跡	A·B-24	Ⅲa
2号竪穴住居跡	C-11	Ⅲa	23竪穴住居跡	B・C-18	Ⅲa	44号竪穴住居跡	B・C-23・24	Ⅲa
3号竪穴住居跡	B・C-15	Ⅲa	24竪穴住居跡	C-18	Ⅲa	45号竪穴住居跡	C-24	Ⅲa
4号竪穴住居跡	B・C-15	Ⅲa	25竪穴住居跡	D-17・18	Ⅲa	46号竪穴住居跡	C・D-23・24	Ⅲa
5号竪穴住居跡	C-15	Ⅲa	26竪穴住居跡	C-18	Ⅲa	47号竪穴住居跡	C-31	Ⅲa
6号竪穴住居跡	C・D-15	Ⅲa	27竪穴住居跡	B-19	Ⅲa	48号竪穴住居跡	B-33	Ⅲa
7号竪穴住居跡	B-15・16	Ⅲa	28竪穴住居跡	C-19	Ⅲa	49号竪穴住居跡	A-33・34	Ⅲa
8号竪穴住居跡	B-16	Ⅲa	29竪穴住居跡	C-19・20	Ⅲa	50号竪穴住居跡	B-33・34	Ⅲa
9号竪穴住居跡	B・C-16	Ⅲa	30竪穴住居跡	A・B-20	Ⅲa	51号竪穴住居跡	A・B-34	Ⅲa
10号竪穴住居跡	C・D-16	Ⅲa	31竪穴住居跡	C・D-20	Ⅲa	52号竪穴住居跡	B-34・35	Ⅲa
11号竪穴住居跡	C-16・17	Ⅲa	32竪穴住居跡	B-20・21	Ⅲa	53号竪穴住居跡	C-33	Ⅲa
12号竪穴住居跡	C-16・17	Ⅲa	33竪穴住居跡	B-21	Ⅲa	54号竪穴住居跡	C-33・34	Ⅲa
13号竪穴住居跡	C-17	Ⅲa	34竪穴住居跡	A・B-21	Ⅲa	55号竪穴住居跡	C-34	Ⅲa
14号竪穴住居跡	B-17	Ⅲa	35竪穴住居跡	C-21	Ⅲa	56号竪穴住居跡	C-33・34	Ⅲa
15号竪穴住居跡	B-17	Ⅲa	36竪穴住居跡	C・D-20・21	Ⅲa	57号竪穴住居跡	C-35	Ⅲa
16号竪穴住居跡	B-16・17	Ⅲa	37竪穴住居跡	A・B-21・22	Ⅲa	58号竪穴住居跡	C-35	Ⅲa
17号竪穴住居跡	B-17	Ⅲa	38竪穴住居跡	B・C-22・23	Ⅲa	59号竪穴住居跡	A・B-36	Ⅲa
18号竪穴住居跡	B-17	Ⅲa	39竪穴住居跡	C・D-21・22	Ⅲa	60号竪穴住居跡	B-36	Ⅲa
19号竪穴住居跡	B-17	Ⅲa	40竪穴住居跡	C・D-22	Ⅲa	61号竪穴住居跡	C-36	Ⅲa
20号竪穴住居跡	B・C-17	Ⅲa	41竪穴住居跡	A-23	Ⅲa	62号竪穴住居跡	C-36	Ⅲa
21号竪穴住居跡	C・D-17	Ⅲa	42竪穴住居跡	B-22・23	Ⅲa	63号竪穴住居跡	A・B-35	Ⅲa



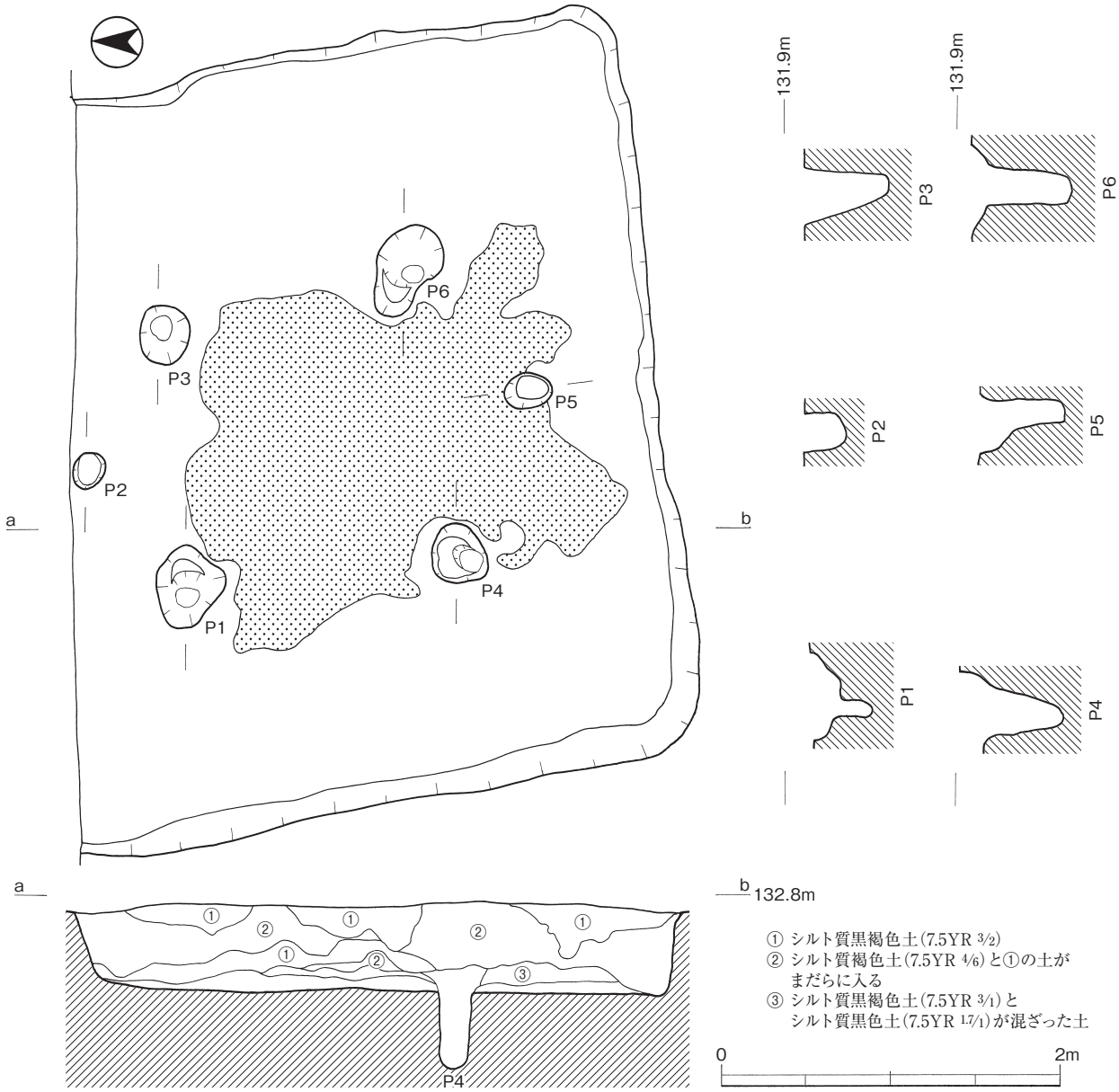
第57図　古墳時代の地形図及び遺構位置図（２）　1：625



第58図　古墳時代遺物出土状況図（１）　1：625



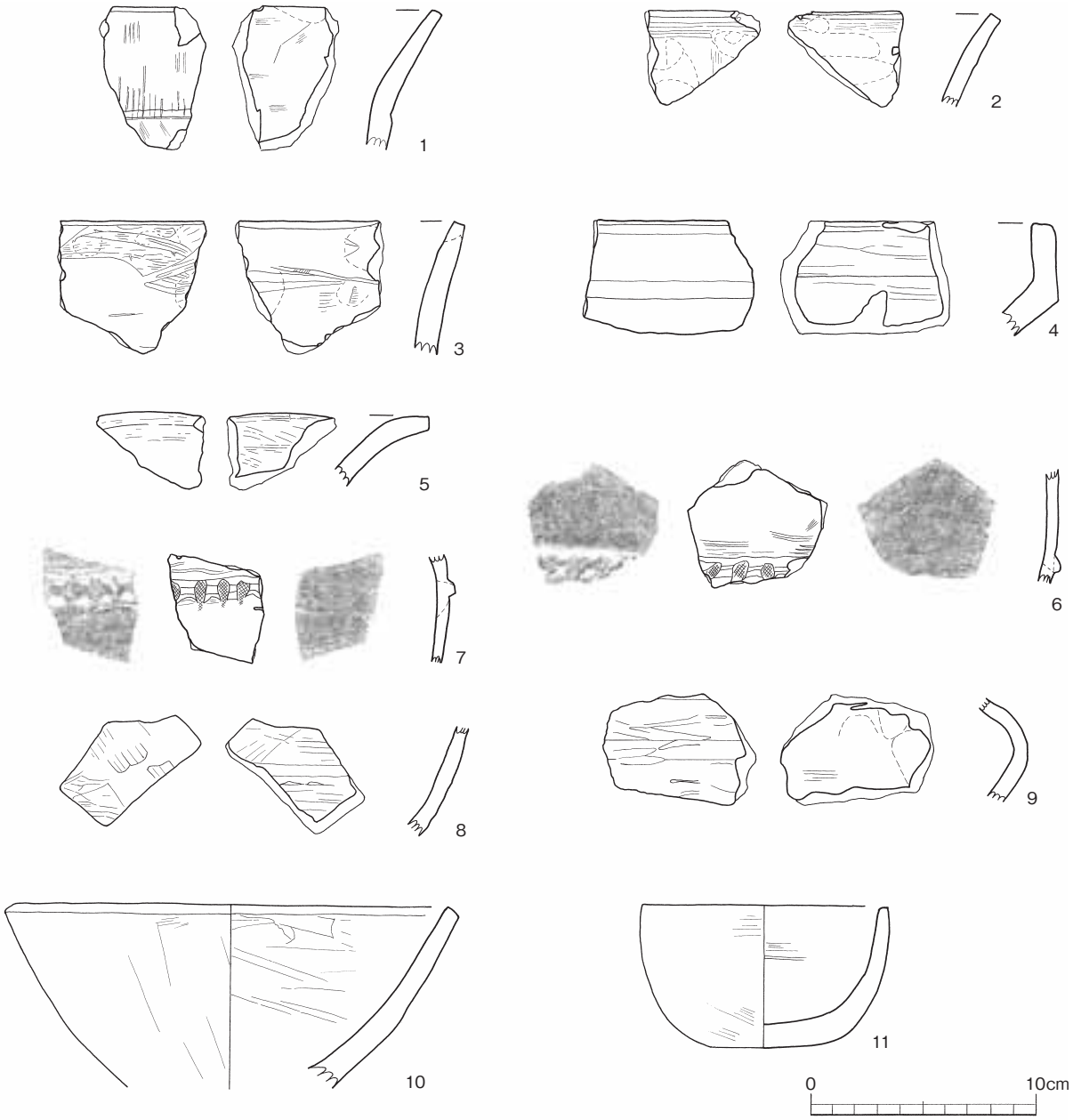
第59図　古墳時代遺物出土状況図（２）　1：625



第60図　１号竪穴住居跡

１号竪穴住居跡（第60図）

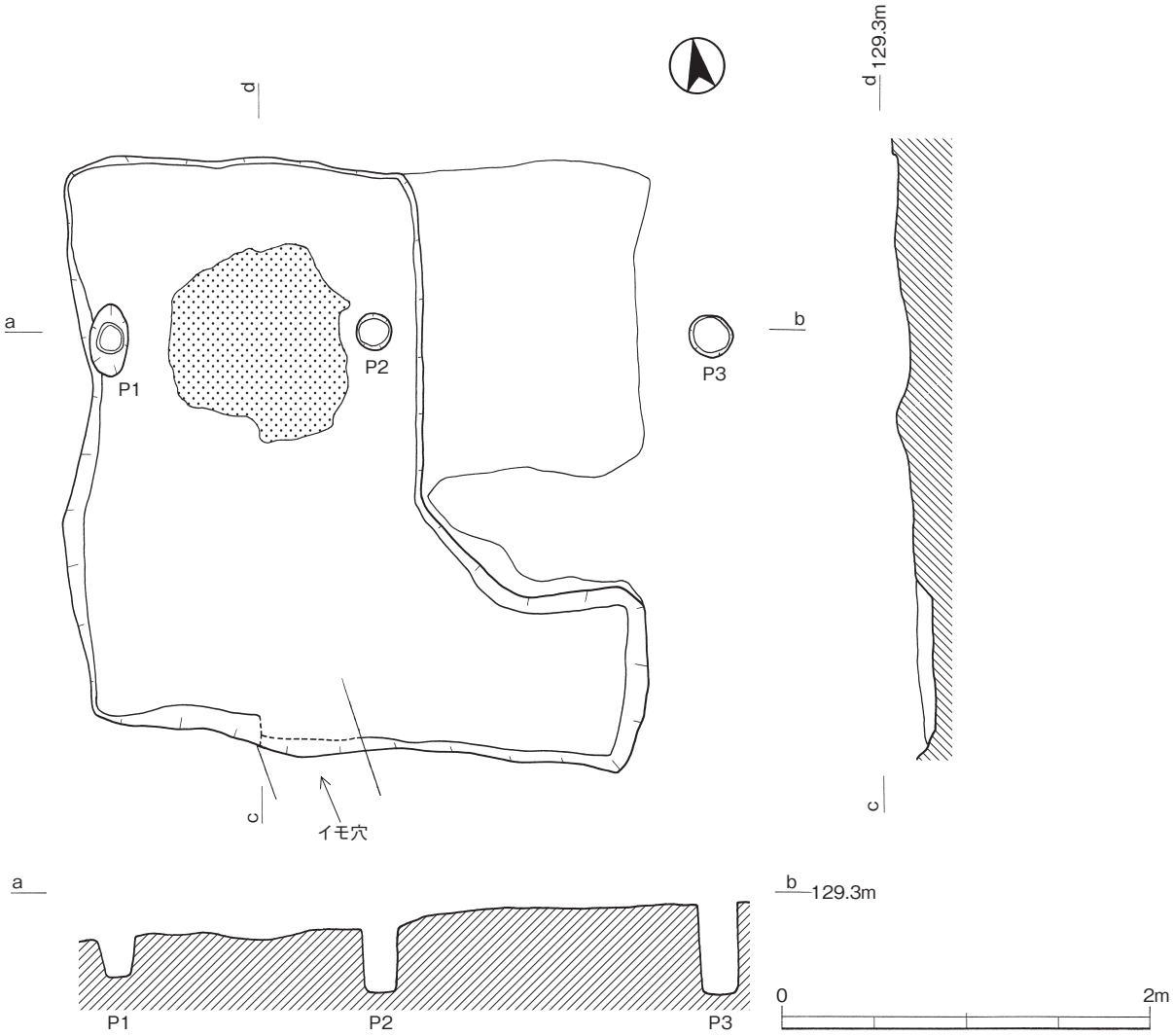
Ｂ・Ｃ－１区，Ⅲa層で検出された。平面形は，長軸約446cm×短軸約358cmの方形の竪穴住居である。北側は調査区外のため，全部の形状を出すことはできなかった。Ⅲa層上面で，埋土の色の違いを確認し，南北方向にベルトを設定して，掘り下げを行った。検出面から床面までの深さは，約46cmである。この住居跡の中央部と想定される場所に住居の床面と思われる硬化面が残存し広がっており，床面直下から６基のピットが検出された。これらのピットの特徴はＰ１・Ｐ３～Ｐ５の形状が酷似しており，Ｐ１とＰ６の形状が酷似している。それぞれの距離は，Ｐ１→Ｐ３，Ｐ３→Ｐ６，Ｐ１→Ｐ４が約160cmで，Ｐ４→Ｐ６が約180cmであり，配列は方形の形になっている。また，Ｐ２→Ｐ５の距離は約260cmであり直線上に並ぶ。これらのことから，ピットはこの住居に伴う柱穴の跡である可能性が高いと思われる。遺物は成川式の土器が出土し，接合作業等を経て11点を図化した。



第61図　１号竪穴住居跡出土遺物

１号竪穴住居跡出土遺物（第61図　１～11）

１～３・５は甕の口縁部である。１は口縁部と頸部に明瞭な段がつく。５は外反する。時期は，東原式であると考える。４は壺の口縁部から頸部である。やや分厚く，つくりはしっかりしている。内外面の調整は，ナデの整形である。６・７は壺の胴部であり，突帯部をもつものである。突帯の刻み部分は布目刻みの整形が施されている。８は高坏の坏部であり，９は小型丸底壺の胴部である。８・９とも外面は丁寧にミガキがあり，色調は若干赤みが強い。10・11は鉢であり，両方とも内外面の表面を丁寧になでて整形している。



第62図　２号竪穴住居跡

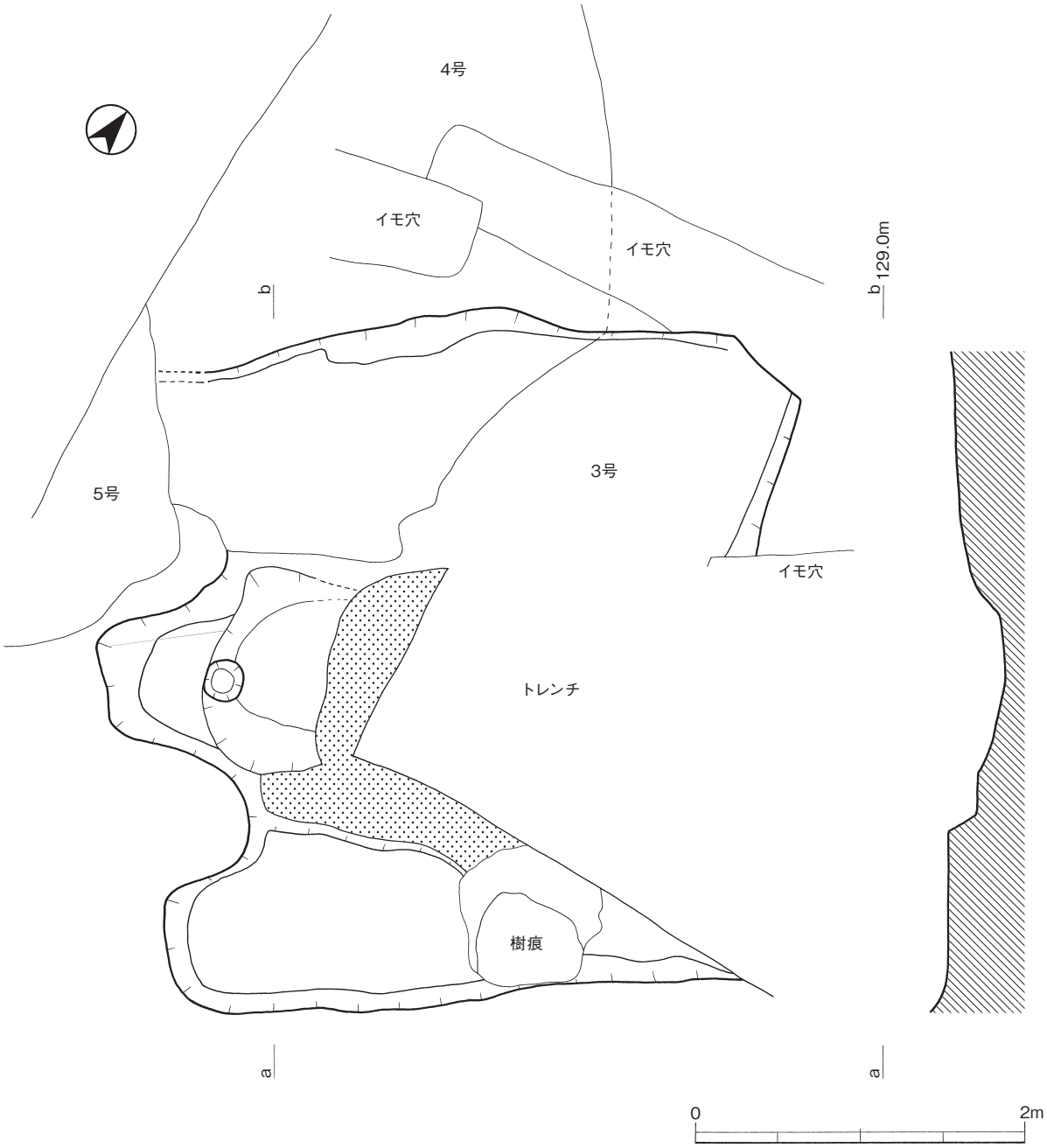
２号竪穴住居跡（第62図）

Ｂ－11区，Ⅲａ層で検出された。Ⅲａ層上面で埋土の色の違いを確認し，南北，東西方向にベルトを設定して掘り下げを行った。平面形は長軸約322㎝×短軸約304㎝の方形の竪穴住居である。この住居の北側からは住居の床面と考えられる硬化面を確認することができた。検出面から床面までの深さは約22㎝である。また，床面直下から東西方向に並んで３基のピットが検出された。それぞれのピットの距離は，Ｐ１→Ｐ２が約144㎝，Ｐ２→Ｐ３が約180㎝であり，直線上に並ぶ。また，ピットの深さも約40㎝前後と酷似している。これらのことや埋土の様子から，ピットはこの住居に伴う柱穴の跡であると思われる。また，この住居の南側は，イモ穴のため削平されていた。この住居跡から出土した遺物はなかった。

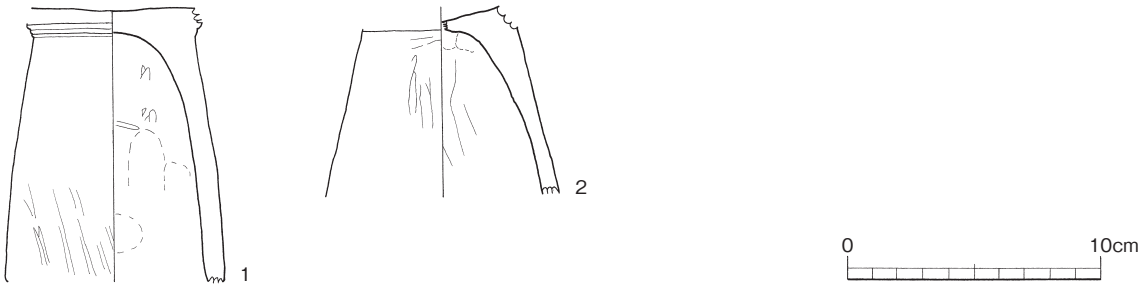
３号竪穴住居跡（第63図）

Ｂ・Ｃ－15区，Ⅲａ層で検出された。平面形は長軸約416㎝×短軸約328㎝の方形であるが，この住居の中央部を東西方向に確認トレンチにより削平されている。この住居跡は，４号・５号竪穴住居跡と切り合い関係にある。住居の床面と考えられる硬化面の広がりが確認できた。西側には張り出し部分をもち，土坑を確認することができた。検出面から床面までの深さは約20㎝～48㎝である。

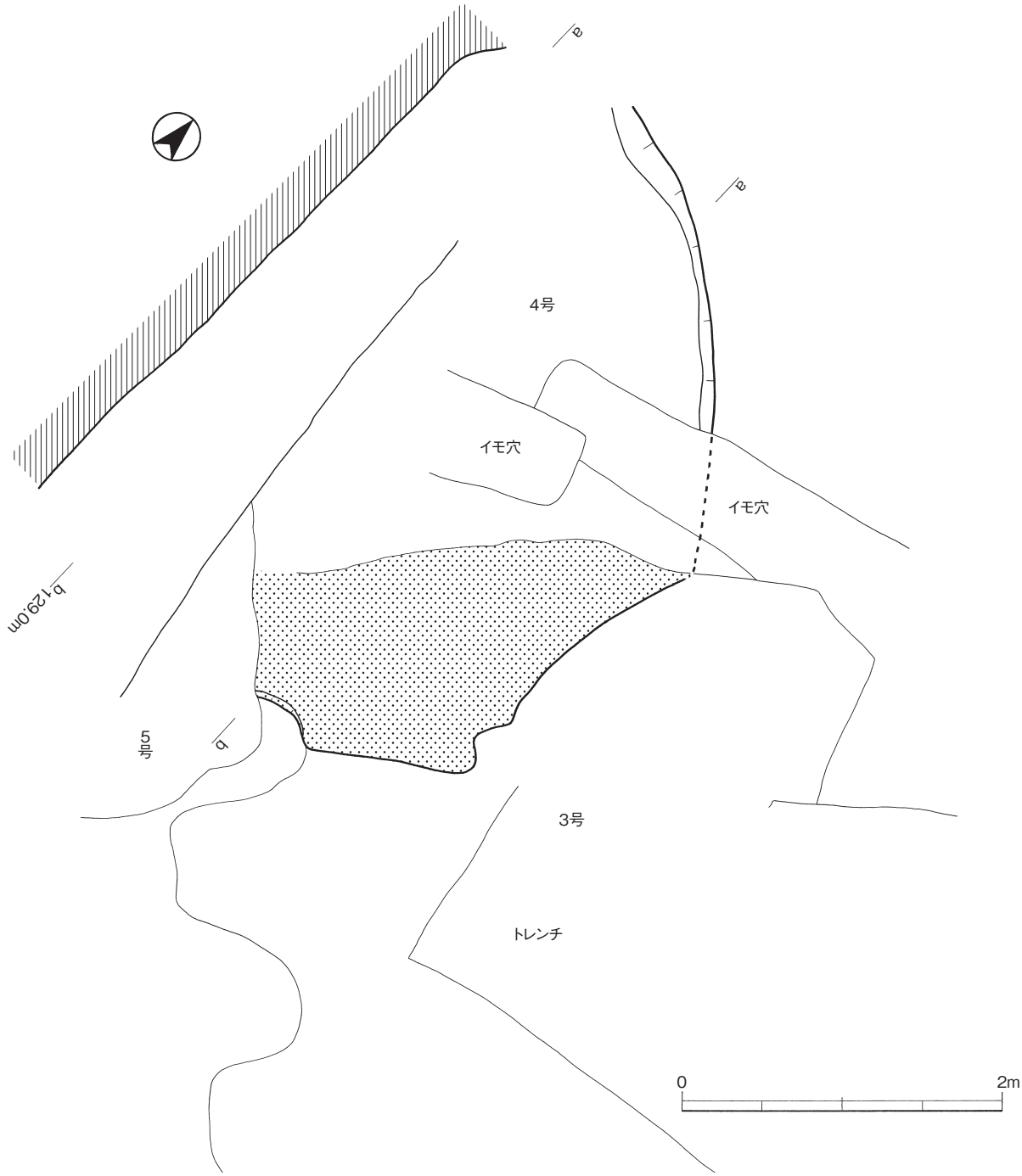
この住居跡からは，成川式の土器片が出土し，接合作業等を経て２点を図化した。



第63図　3号竪穴住居跡



第64図　3号竪穴住居跡出土遺物



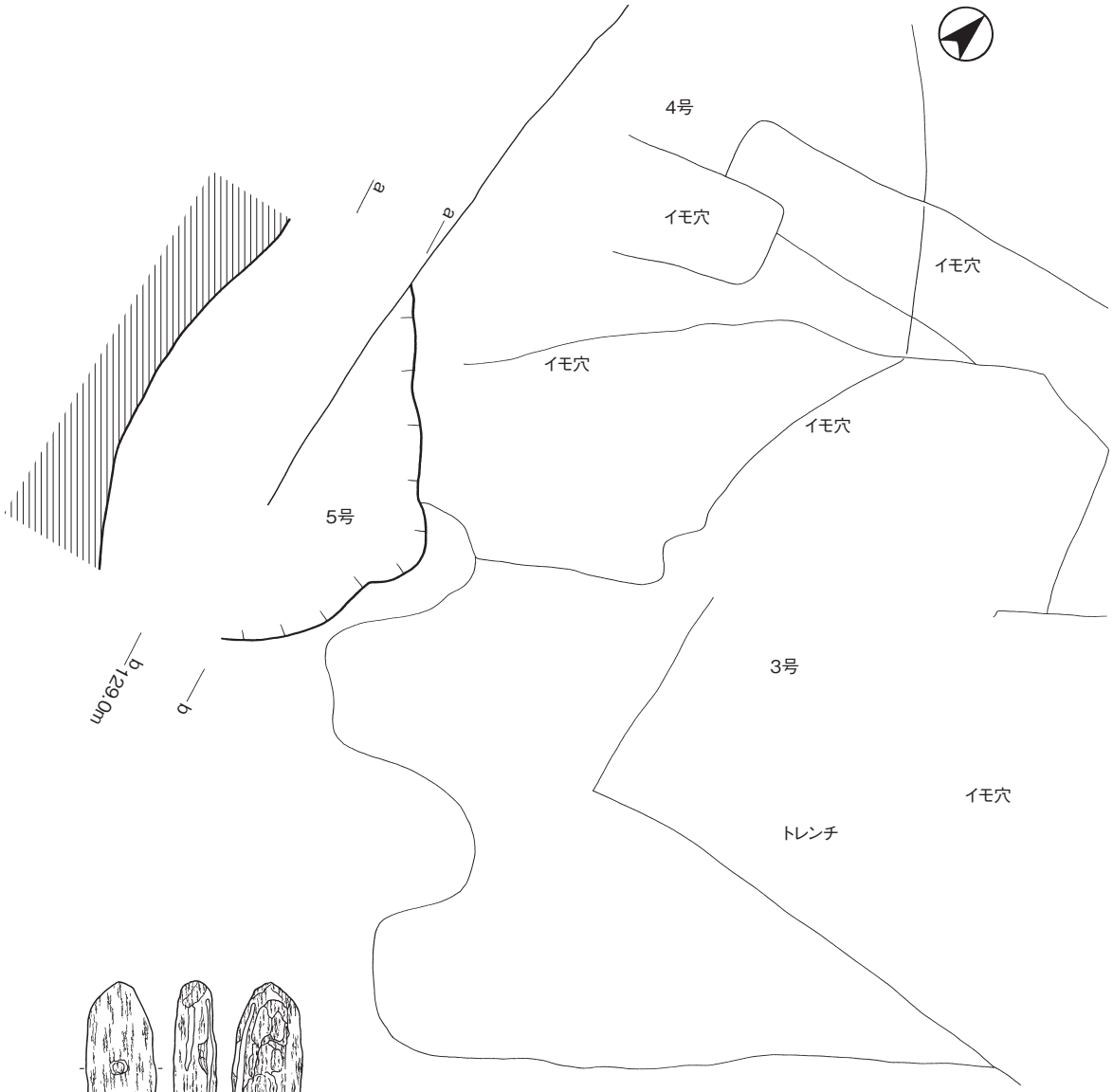
第65図　４号竪穴住居跡

３号竪穴住居跡出土遺物（第64図　１，２）

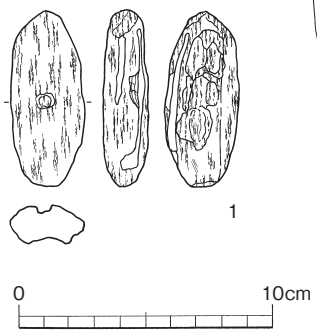
１・２は高坏の脚部である。内面に赤色顔料の飛沫が数点認められるものである。

４号竪穴住居跡（第65図）

Ｂ・Ｃ－15区，Ⅲａ層で検出された。平面形は長軸約400㎝×短軸約230㎝の不定形である。西側は削平されていたため，はっきりとしたプランを確認することができなかった。この住居跡は，３号・５号竪穴住居跡と切り合い関係にある。住居の床面と思われる硬化面の広がりが確認できた。検出面から床面までの深さは約12㎝である。この住居跡から出土した遺物はなかった。



第66図　５号竪穴住居跡



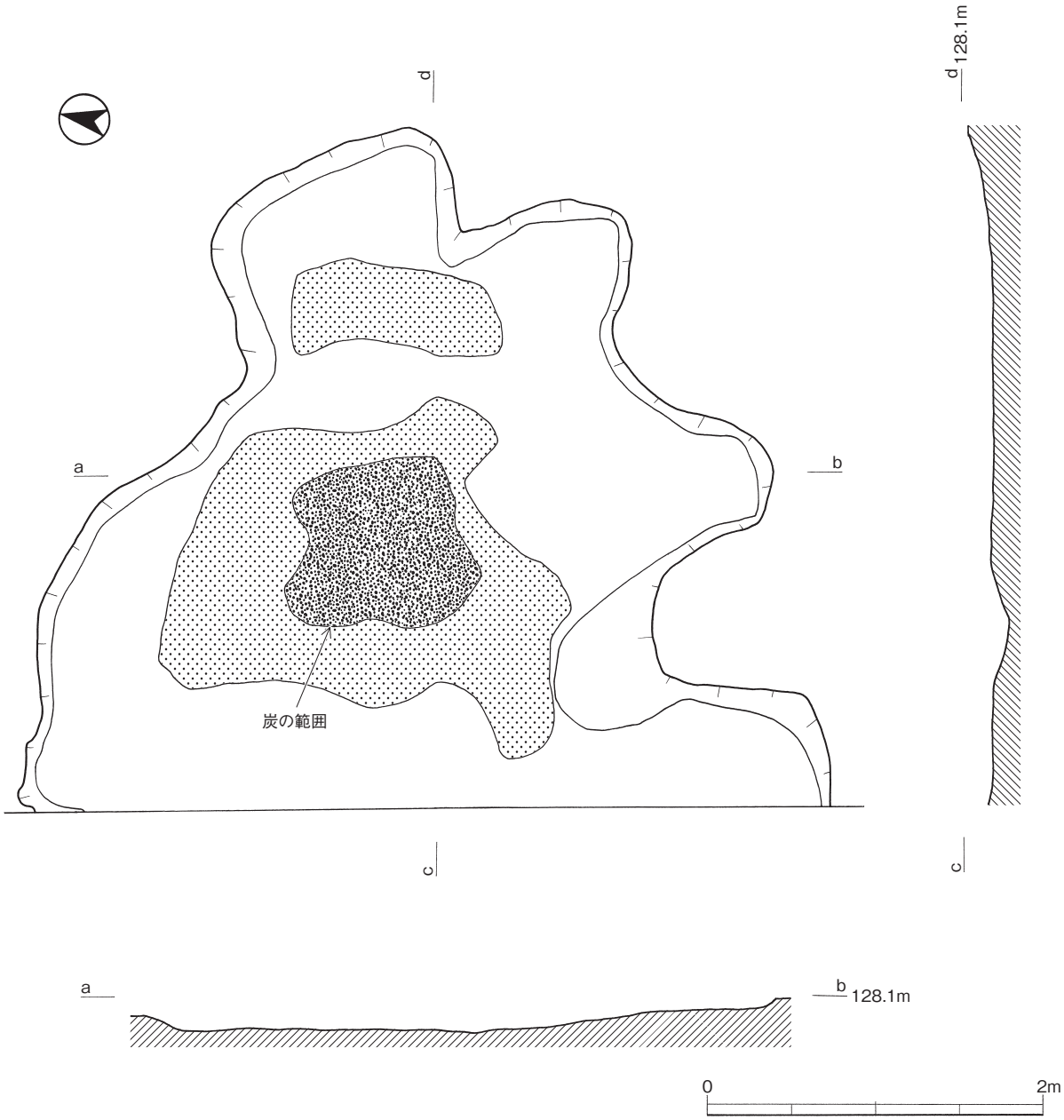
第67図　５号竪穴住居跡出土遺物

５号竪穴住居跡（第66図）

Ｃ－15区，Ⅲａ層で検出された。平面形は長軸約220㎝×短軸約90㎝の不定形である。Ⅲａ層上面で埋土の色の違いを確認し，掘り下げを行った。この住居跡は，３号・４号竪穴住居跡と切り合い関係にある。住居の床面と思われる硬化面の広がりのみが確認でき，調査の時点で竪穴住居跡と判断した。したがって，竪穴住居跡として報告する。検出面から床面までの深さは約28㎝である。この住居跡から軽石製品が１点出土した。

５号竪穴住居跡出土遺物（第67図　１）

１は軽石製品である。人為的に加工した痕があったので，出土遺物として掲載する。



第68図　6号竪穴住居跡

6号竪穴住居跡（第68図）

C・D－15区，Ⅲa層で検出された。平面形は長軸約404㎝×短軸約380㎝の不定形であるが，東側から南側にかけて，やや花弁状に近い形状のプランを確認することができた。Ⅲa層上面で埋土の色の違いを確認し，掘り下げを行った。西側の一部は，調査区外のため，調査をすることができなかった。この住居跡の中央部と想定される場所に住居の床面と思われる硬化面が広がっていた。また，炉跡と思われる焼土域も広がっていた。検出面から床面までの深さは約22㎝であり比較的浅かった。この住居跡から出土した炭化物の樹種同定を試みたところ，コナラ属コナラ亜種クヌギ節という結果が出た。

第14表　竪穴住居の形状等について（1）

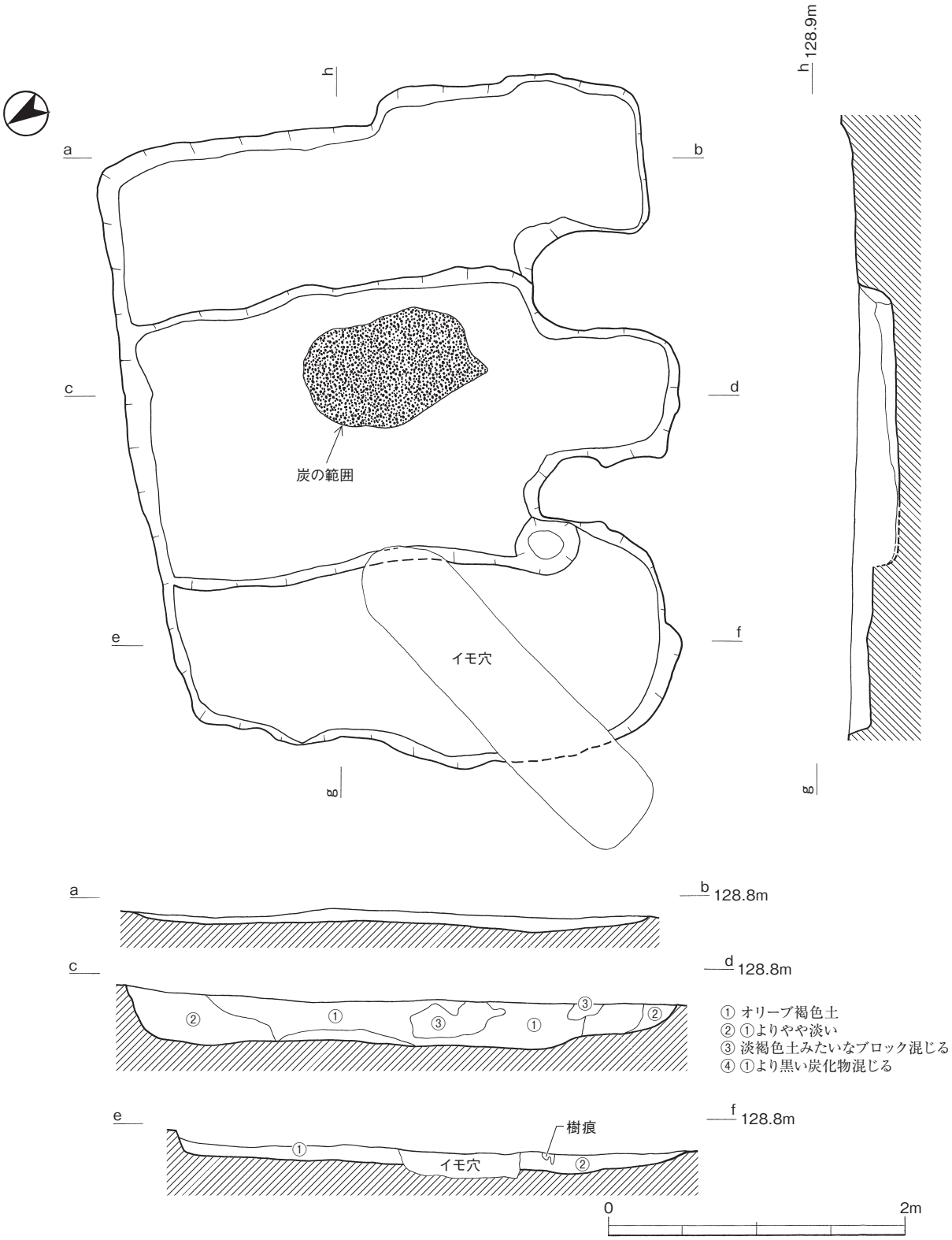
▲は長軸・短軸がはっきりしないもの

遺構名	検出区	検出面	形状	張り出し	上面（cm）		深さ	長軸の方向	張り床	ピットの数
					長軸	短軸	cm			
1号竪穴住居跡	B・C-1	Ⅲa	方形	0	446	358	46	N-88-E	○	6
2号竪穴住居跡	B-11	Ⅲa	方形	2	322	304	22	N-77-W	○	3
3号竪穴住居跡	B-15	Ⅲa	方形	3	416	328	不明	不明	○	1
4号竪穴住居跡	B・C-15	Ⅲa	不定形	0	400	230	12	不明	○	0
5号竪穴住居跡	C-15	Ⅲa	不定形	0	220	90	28	不明	○	0
6号竪穴住居跡	C・D-15	Ⅲa	不定形	4	▲404	▲380	22	N-78-E	○	0
7号竪穴住居跡	B-15・16	Ⅲa	方形	3	410	372	33	N-57-W	○	1
8号竪穴住居跡	B-16	Ⅲa	不定形	1	490	360	19	N-8-W	○	0
9号竪穴住居跡	B・C-16	Ⅲa	方形	0	590	266	56	N-13-W	○	1
10号竪穴住居跡	C・D-16	Ⅲa	不定形	2	▲410	▲352	22	N-79-W	○	0
11号竪穴住居跡	C-16・17	Ⅲa	方形	2	470	440	8	N-9-W	○	2
12号竪穴住居跡	C-16・17	Ⅲa	方形	0	236	210	4	N-80-W	○	0
13号竪穴住居跡	C-17	Ⅲa	方形	0	580	520	30	N-10-W	○	8
14号竪穴住居跡	B-17	Ⅲa	不定形	2	220	200	10	N-21-E	○	0
15号竪穴住居跡	B-17	Ⅲa	不定形	0	120	60	8	N-72-E	○	0
16号竪穴住居跡	B-16・17	Ⅲa	不定形	1	274	210	42	N-19-W	○	1
17号竪穴住居跡	B-17	Ⅲa	不定形	0	226	200	不明	N-14-W	○	1
18号竪穴住居跡	B-17	Ⅲa	不定形	3	360	300	14	N-44-E	○	10
19号竪穴住居跡	B-17	Ⅲa	方形	0	180	140	4	N-78-E	○	0
20号竪穴住居跡	B,C-17	Ⅲa	方形	0	250	234	14	N-76-E	○	7

第15表　1・3・5号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図	住居NO	番号	器種	部位	口径	底径	器高	調整・文様		色調		胎土	備考
					cm	cm	cm	外面	内面	外面	内面		
61	1	1	甕	口縁部	－	－	－	ハケメ	ナデ	黒褐	明褐	石英，長石，角閃石	－
		2	甕	口縁部	－	－	－	ハケメ後ナデ	ナデ	赤褐	明赤褐	石英，長石，角閃石	－
		3	甕	口縁部	－	－	－	ナデ	ナデ	赤褐	明赤褐	石英，長石，角閃石	－
		4	壺	口縁～頸部	－	－	－	工具ナデ	丁寧なナデ	赤褐	にぶい赤褐	石英，長石，角閃石	－
		5	甕	口縁部	－	－	－	工具ナデ	工具ナデ	明赤褐	明赤褐	石英，長石，角閃石	－
		6	壺	胴部	－	－	－	ナデ	ナデ	橙	にぶい黄橙	石英，長石，角閃石	布目刻突帯
		7	壺	胴部	－	－	－	ナデ	ナデ	黒褐	明赤褐	石英，長石，角閃石	布目刻突帯
		8	高坏	坏部	－	－	－	ミガキ	ケズリ後ナデ	赤	にぶい橙	石英，長石，角閃石	－
		9	小型丸底壺	胴部	－	－	－	ミガキ	ナデ	赤	赤褐	石英，長石	－
		10	鉢	口縁～胴部	20	－	－	丁寧なナデ	丁寧なナデ	橙	橙	石英，長石，角閃石	－
		11	鉢	完形	10.6	3.6	6.3	丁寧なナデ	丁寧なナデ	明赤褐	にぶい黄橙	石英，長石，角閃石	－
64	3	1	高坏	脚部	－	8.5	－	ミガキ	ナデ	赤	橙	石英，輝石	赤色顔料
		2	高坏	脚部	－	6.1	－	ミガキ	ナデ	橙	橙	角閃石	赤色顔料

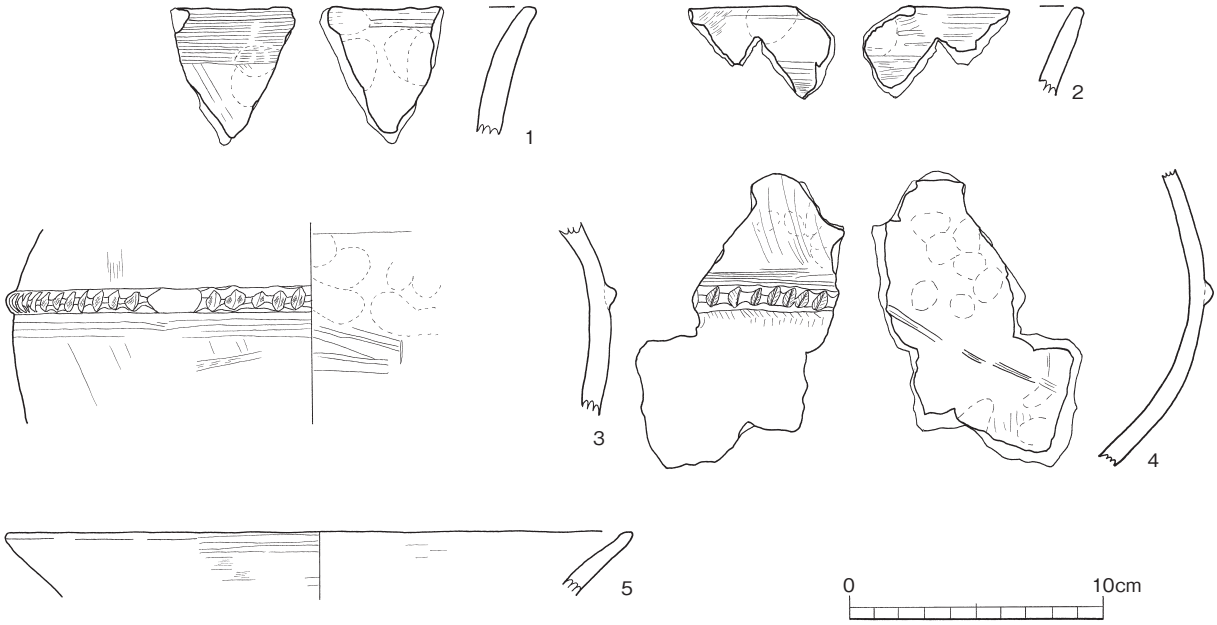
挿図	住居NO	番号	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
					cm	cm	cm	g	
67	5	1	軽石製品	軽石	6.9	2.9	1.5	9.96	－



第69図　７号竪穴住居跡

７号竪穴住居跡（第69図）

Ｂ－15・16区，Ⅲa層で検出された。平面形は，長軸約410㎝×短軸約372㎝の長方形である。西側に一部張り出しをもつような，形状である。また，住居の中を長方形に区切っており，中央部が一段低くなっている。検出面からの深さは，最深部で約33㎝である。西側は，イモ穴により削平されていた。この住居からは，成川式の甕や壺の土器片が出土し，接合作業等を経て５点を図化した。



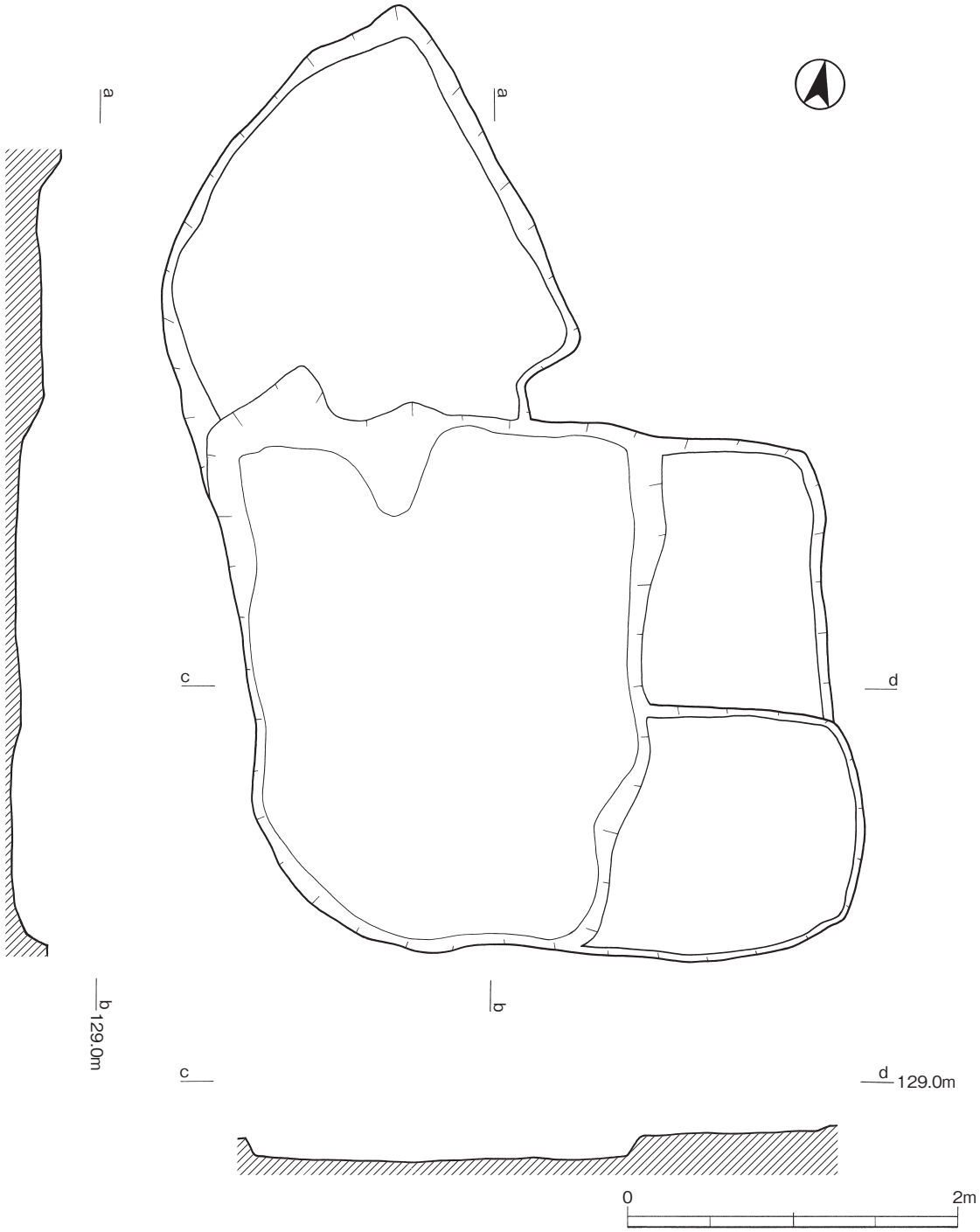
第70図　７号竪穴住居跡出土遺物

７号竪穴住居跡出土遺物（第70図　１～５）

１・２は甕の口縁部である。両者とも口唇部が外側に外反する。３と４は壺の胴部である。両者とも突帯部をもつものである突帯部の整形は，板目刻みである。３は外面にススが付着している。４の口縁部から突帯部にかけて，ふきこぼれの痕のようなものがみられる。５は高坏の坏部の口縁部である。以上のような出土遺物から，この竪穴住居跡の時期は，東原段階の時期であると考えられる。

第16表　７号竪穴住居跡出土遺物観察表

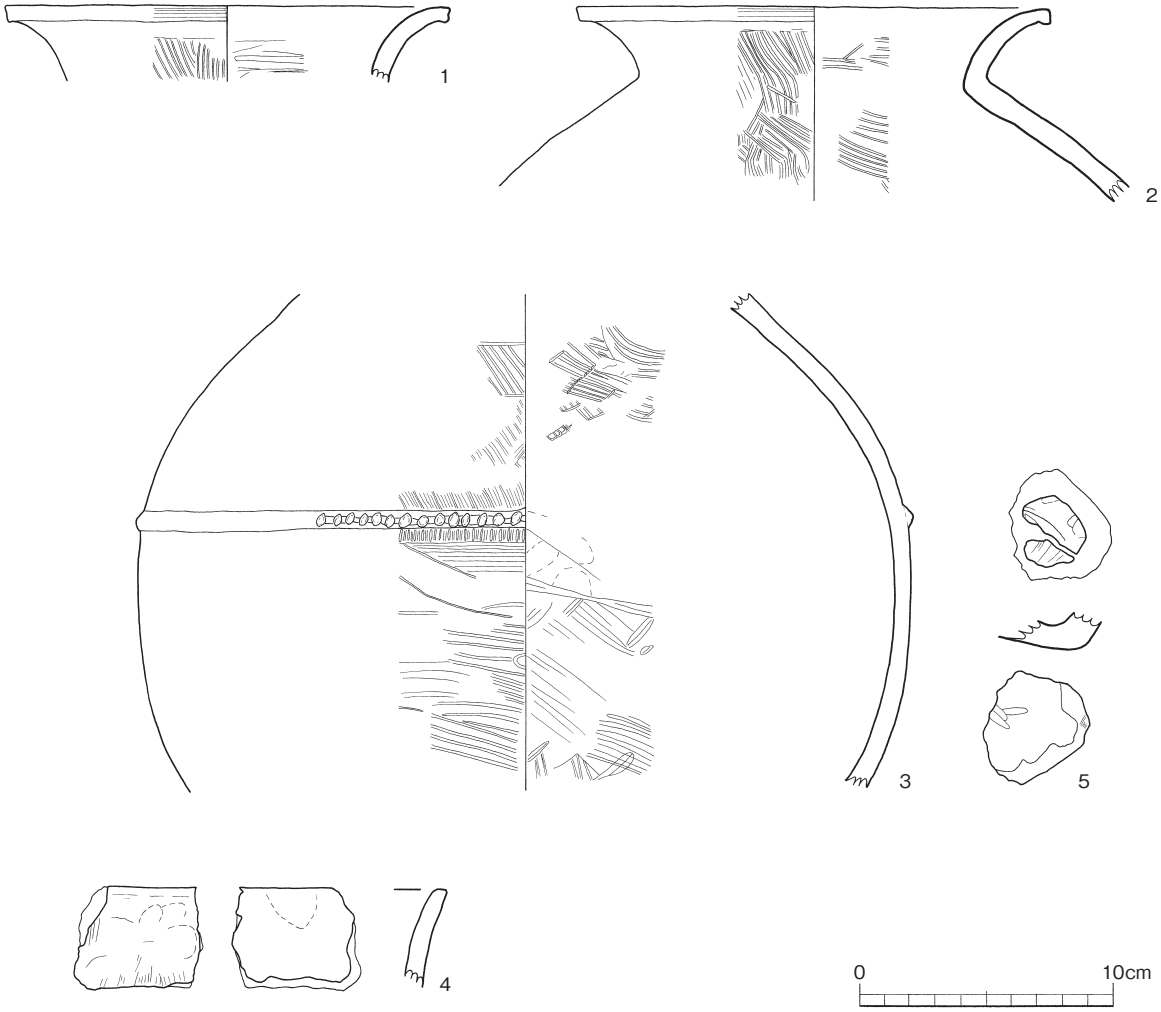
挿図	住居 NO	番号	器種	部位	口径	底径	器高	調整・文様		色調		胎土	備考
					cm	cm	cm	外面	内面	外面	内面		
70	7	1	甕	口縁部	－	－	－	ハケメ	ハケメ後ナデ	橙	明褐	角閃石	－
		2	甕	口縁部	－	－	－	ナデ	ナデ	明褐	明褐	石英	－
		3	壺	胴部	－	－	－	ハケメ後ナデ	ナデ	黒褐	黄橙	石英	－
		4	壺	胴部	－	－	－	ナデ	指オサエ	黄橙	黄橙	石英，角閃石	外面ふきこぼれ
		5	高坏	坏部	24.4	－	－	ナデ	ナデ	明褐	橙	石英	－



第71図　８号竪穴住居跡

８号竪穴住居跡（第71図）

Ｂ－16区，Ⅲａ層で検出された。平面形は，全体をみると，長軸約490㎝×短軸約360㎝の不定形である。東西方向に正方形のプランに，北側に一部張り出しをもつような形状である。住居の中は，４箇所に間仕切りがあり，断面の形状をみると，一番広い場所が一段低い。検出面からの深さは約19㎝である。掘り下げていくと，この住居の床面と思われる硬化面が広がっていた。ピットは検出されなかった。この住居からは，中津野式の壺と考えられる遺物や，甕が出土し接合作業等を経て５点を図化した。



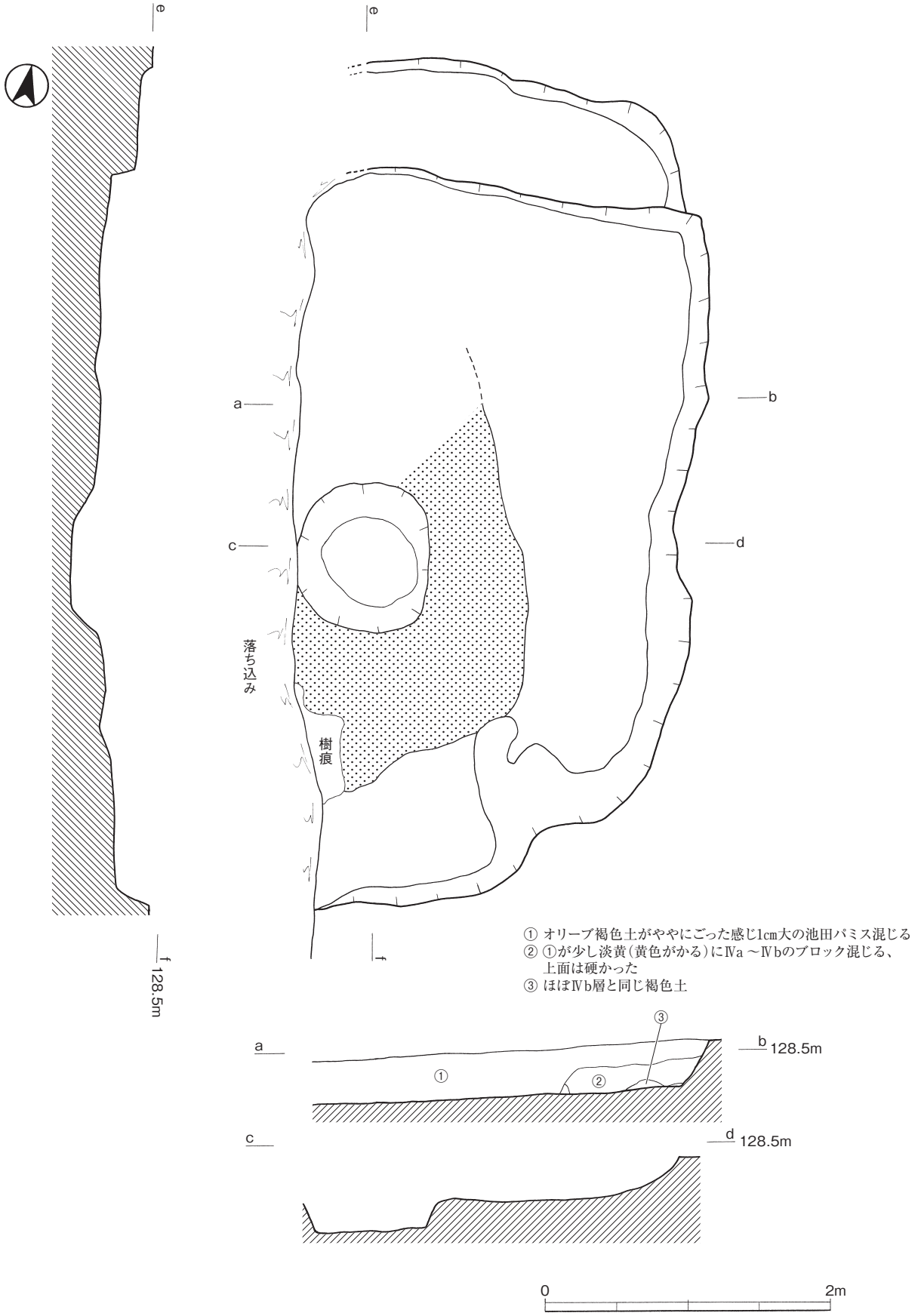
第72図　8号竪穴住居跡出土遺物

8号竪穴住居跡出土遺物（第72図　1～5）

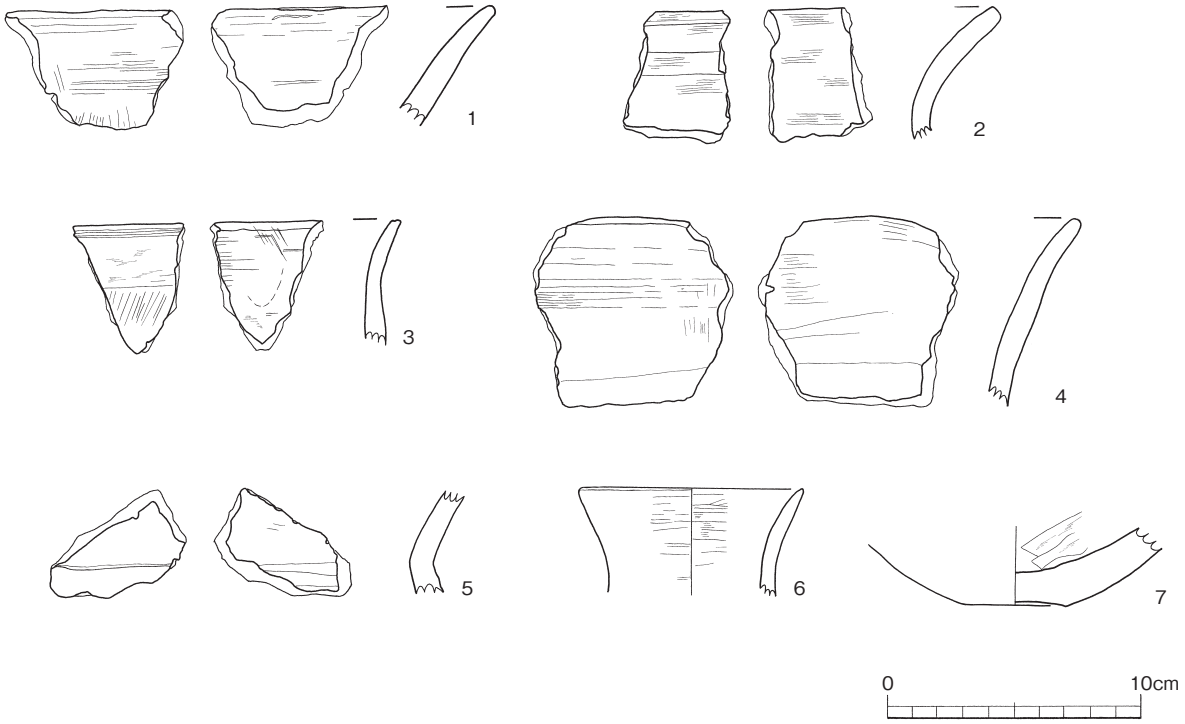
1・2は壺の口縁部である。2は頸部から口唇部に向かって大きく「くの字」に外反する。3は壺の胴部である。土器の胎土や外面・内面の調整の様子から，これらの3点は酷似した個体の様相を呈している。突帯をもち調整も縦・横の方向にしっかりナデ整形が施されている。時期は中津野式古段階かそれ以前と考えられる。色調は赤みがかっている。4は東原式の甕の口縁部で，頸部にハケメがある。5は甕の底部である。

第17表　8号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図	住居NO	番号	器種	部位	口径	底径	器高	調整・文様		色調		胎土	備考
					cm	cm	cm	外面	内面	外面	内面		
72	8	1	壺	口縁部	18.8	－	－	工具ナデ	ミガキ	赤褐	黒褐	石英，長石，角閃石	－
		2	壺	口縁部～肩部	18.8	－	－	工具ナデ	ミガキ	赤褐	黒褐	石英，長石，角閃石	－
		3	壺	胴部	－	－	－	工具ナデ	ナデ	赤褐	黒褐	石英，長石，角閃石	－
		4	甕	口縁部	－	－	－	ナデ，カキアゲ	ナデ	褐	橙	石英，長石，角閃石	－
		5	甕	底部	－	－	－	ナデ	ナデ	褐	褐	長石，角閃石	－



第73図　9号竪穴住居跡



第74図　９号竪穴住居跡出土遺物

９号竪穴住居跡（第73図）

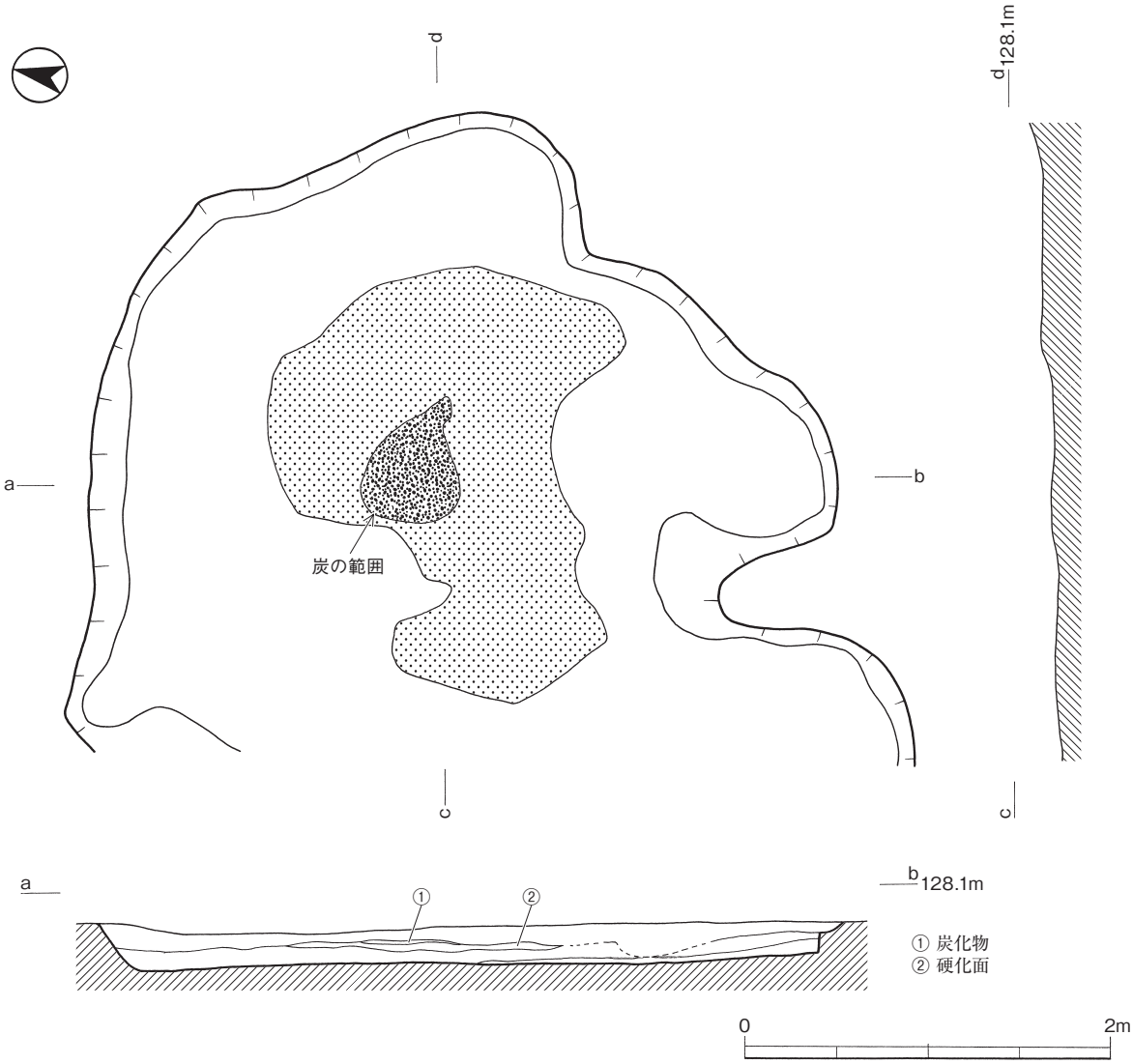
Ｂ・Ｃ－16区，Ⅲａ層で検出された。平面形は長軸約590㎝×短軸約266㎝の長方形である。この住居の西側は，落ち込みがあるため住居全体のプランは検出することができなかった。掘り下げていくと，この住居の床面と思われる硬化面が明瞭に残存し広がっていた。検出面からの深さは約56㎝である。この住居は中央部と想定される場所に土坑をもつ。この竪穴住居跡からは甕の口縁部や底部，壺等が出土し，接合作業等を経て7点を図化した。

９号竪穴住居跡出土遺物（第74図　１～７）

１・２は甕形土器の口縁部で内外面ともナデで調整されている。１は頸部から口唇部にかけてやや外反する。３は壺形土器の中でも小型の細い頸部をもつ。５は甕形土器の頸部であり，頸部と肩部の間に明瞭な段をもつ。３・４・６は壺形土器の口縁部で内外面とも丁寧なナデで調整されている。６は頸部に縦方向のカキアゲがある。７は壺形土器の底部である。

第18表　９号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図	住居 NO	番号	器種	部位	口径	底径	器高	調整・文様		色調		胎土	備考
					㎝	㎝	㎝	外面	内面	外面	内面		
74	9	1	甕	口縁部	－	－	－	ナデ	ナデ	明褐	橙	石英	－
		2	甕	口縁部	－	－	－	ナデ	ナデ	褐	明褐	輝石	－
		3	壺	口縁部	－	－	－	ナデ	ナデ	明赤褐	明褐	角閃石	－
		4	壺	口縁部	－	－	－	ナデ	ナデ	橙	明褐	石英	－
		5	甕	頸部	－	－	－	ナデ	ナデ	黄褐	黄褐	石英	－
		6	壺	口縁部	11.5	－	－	丁寧なナデ	丁寧なナデ	褐	明褐	角閃石	－
		7	壺	底部	－	4.5	－	ナデ	ナデ	明褐	明褐	石英，黒雲母	－



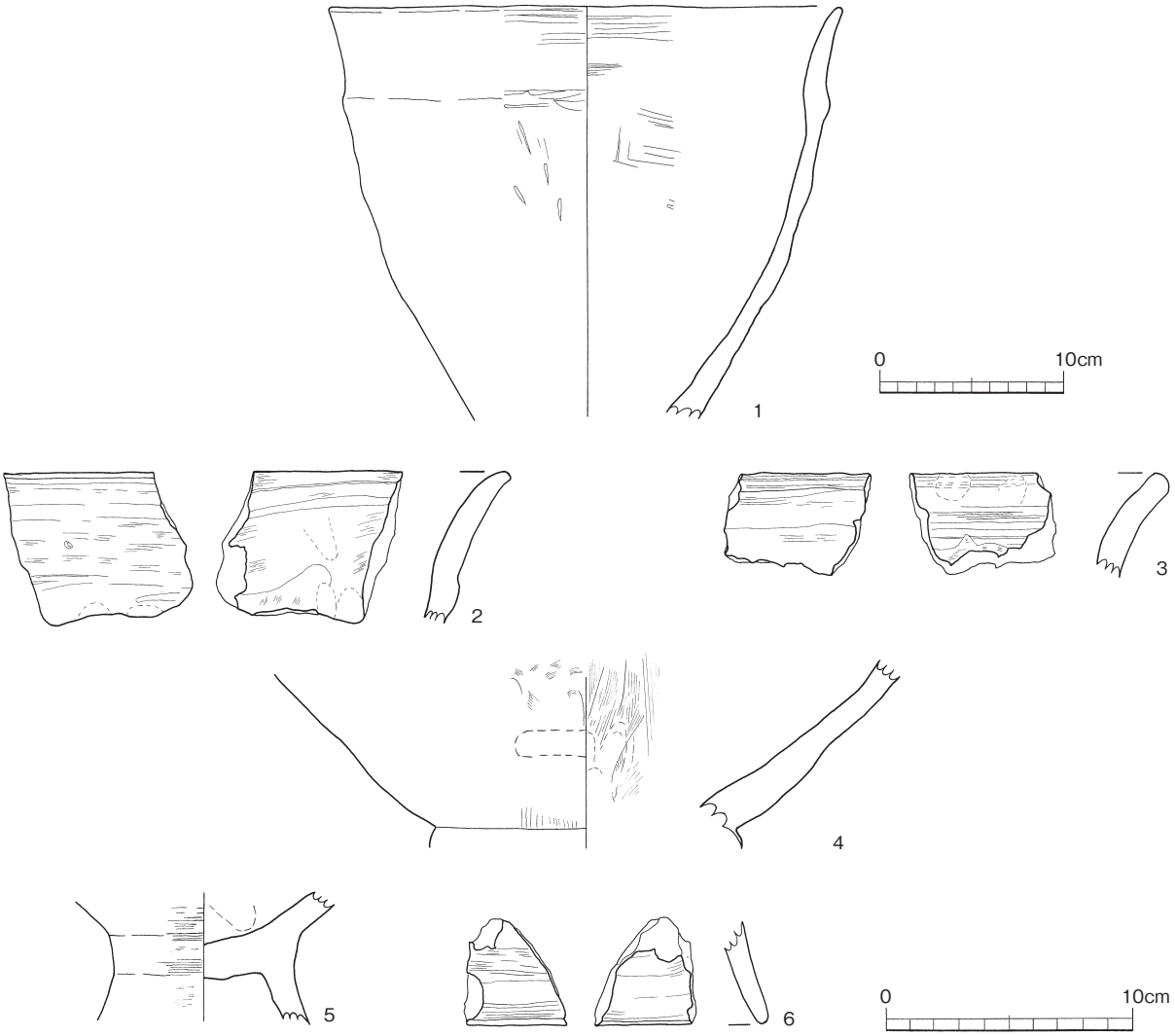
第75図　10号竪穴住居跡

10号竪穴住居跡（第75図）

Ｃ・Ｄ－16区，Ⅲａ層から検出された。平面形は長軸約410㎝×短軸約352㎝の不定形であるが，隣接する６号住居同様に東側から南側にかけて，やや花弁状に近い形状のプランを確認することができた。西側の一部は調査区外のため，調査をすることができなかった。この住居跡の中央部と想定される場所に住居の床面と思われる硬化面が広がっていた。また，炉跡と思われる焼土域も広がっていた。検出面から床面までの深さは約22㎝である。この住居からは成川式の甕や壺等の遺物が出土し，接合作業等を経て，６点を図化した。

10号竪穴住居跡出土遺物（第76図　１～６）

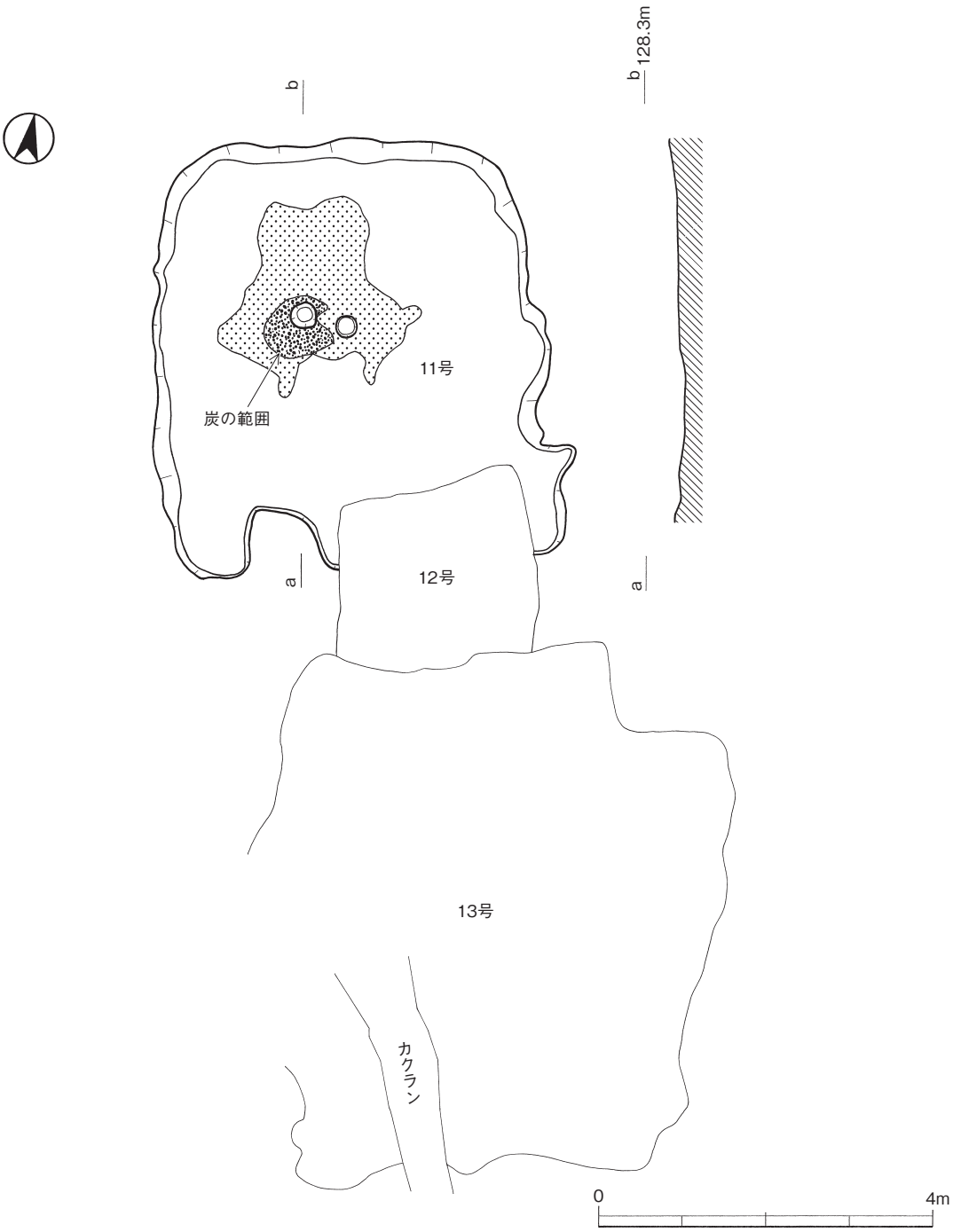
１は甕形土器であり，口唇部から頸部にかけて明瞭な段をもち内側に稜をもって外反していく。内外面とも丁寧なナデで整形されている。底部付近が赤化しているので，火熱を受けていたことが窺える。２は甕形土器の口縁部である。内外面ともナデで整形されている。３は甕形土器の口縁部である。頸部から肩部にかけて段をもち内外面ともにミガキ痕がある。４の外面はミガキで調整されている。４・５は甕形土器の底部である。６は台付の鉢の脚部である。



第76図　10号竪穴住居跡出土遺物

第19表　10号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図	住居 NO	番号	器種	部位	口径	底径	器高	調整・文様		色調		胎土	備考
					cm	cm	cm	外面	内面	外面	内面		
76	10	1	甕	口縁～胴部	28	―	―	ナデ	ナデ	褐	暗赤褐	石英	―
		2	甕	口縁部	―	―	―	工具ナデ	ナデ	黒褐	褐	角閃石	―
		3	甕	口縁部	―	―	―	ミガキ	ミガキ	明褐	暗褐	石英	―
		4	甕	底部	―	―	―	ミガキ	ナデ	明褐	明褐	角閃石	―
		5	甕	底部	―	5.4	―	工具ナデ	ナデ	明褐	明褐	石英，輝石	―
		6	台付鉢	脚部	―	―	―	ナデ	ナデ	黒褐	暗褐	石英	―



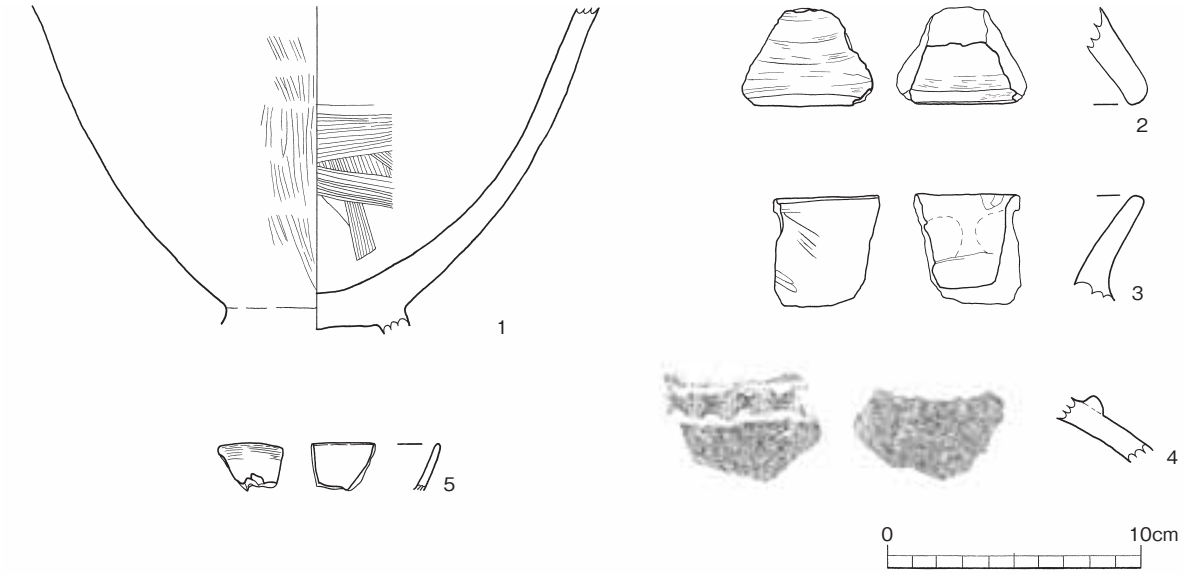
第77図　11号竪穴住居跡

11号竪穴住居跡（第77図）

Ｃ－16・17区，Ⅲａ層で検出された。平面形は長軸約470㎝×短軸約440㎝の方形である。南側が12号住居と切り合い関係にある。切り合いの新旧関係は，12号竪穴住居跡の床面が，11号竪穴住居跡を切っているので，11号→12号となる。

11号竪穴住居跡のほぼ中央部に，床面と思われる硬化面が明瞭に残存し広がっていた。また，炉跡と思われる焼土域も広がっていた。この焼土域から数点の甕形土器の土器片が出土した。この住居から出土した炭化物の樹種同定を試みた。サクラ属という結果が出た。

上面が削平を受けており，検出面から床面までの深さは約８㎝と浅い。この住居からは成川式の甕や壺等の遺物が出土し，接合作業等を経て，５点を図化した。



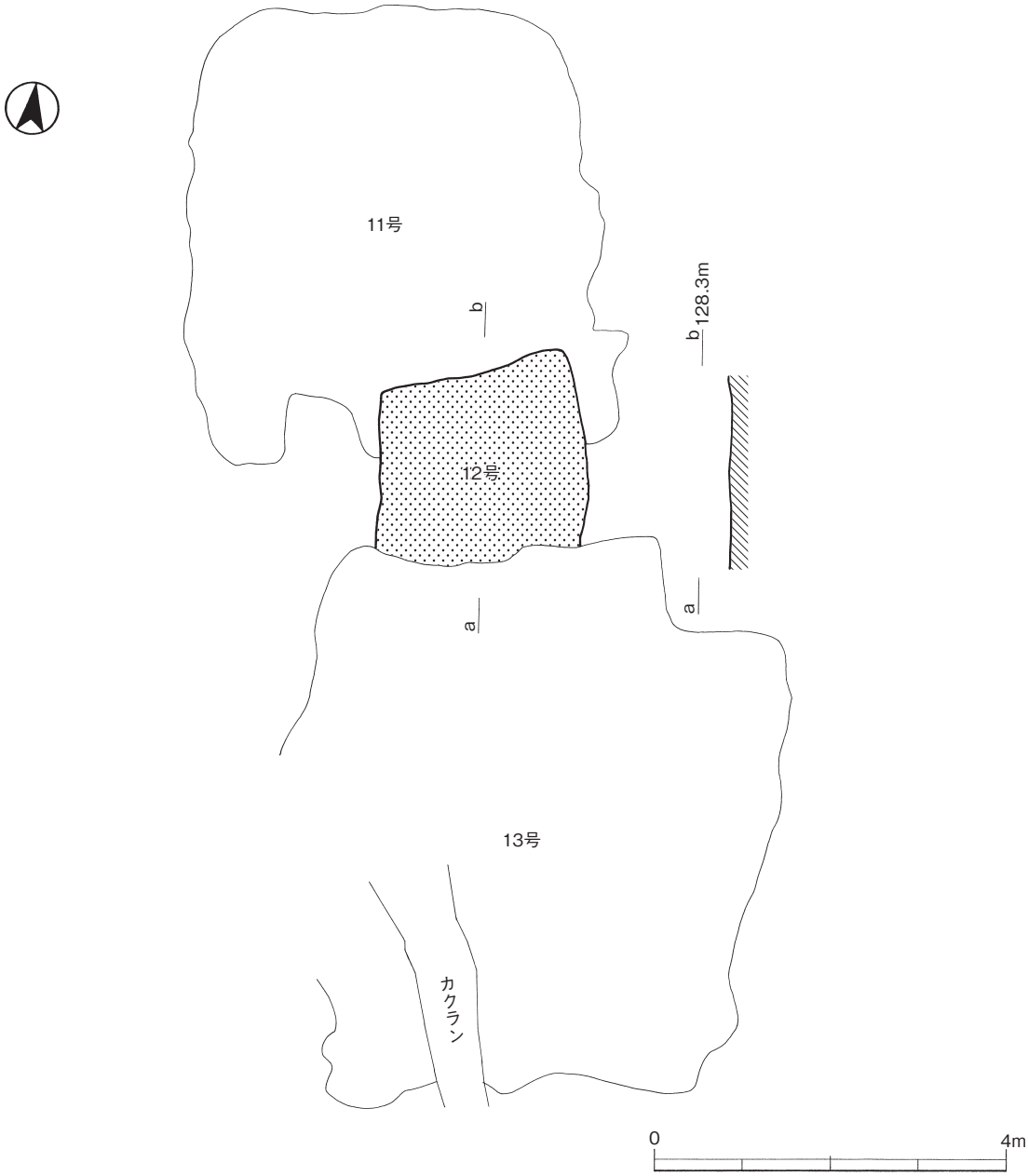
第78図　11号竪穴住居跡出土遺物

11号竪穴住居跡出土遺物（第78図　1～5）

1は甕形土器の胴～底部である。住居内の炉跡から出土した土器片を接合したものである。外面の調整は，ミガキが施されており，内面調整はナデである。2は甕形土器の脚部であり，3は壺形土器の口縁部である。頸部から肩部にかけて鋭角に外反する。4は突帯をもつ壺形土器である。5は小型丸底壺の口縁部であり，内外面とも丁寧なミガキがある。

第20表　11号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図	住居 NO	番号	器種	部位	口径	底径	器高	調整・文様		色調		胎土	備考
					cm	cm	cm	外面	内面	外面	内面		
78	11	1	甕	胴部～底部	－	－	－	ミガキ	ナデ	赤褐	橙	石英，長石，角閃石	炉中内出土
		2	甕	脚部	－	－	－	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	石英，長石，角閃石	－
		3	壺	口縁部	－	－	－	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	石英，長石，角閃石	－
		4	壺	肩部	－	－	－	ナデ	ナデ	黒褐	にぶい黄褐	石英，長石，角閃石	－
		5	小型丸底壺	口縁部	－	－	－	ミガキ	ミガキ	橙	橙	石英，長石，角閃石	－



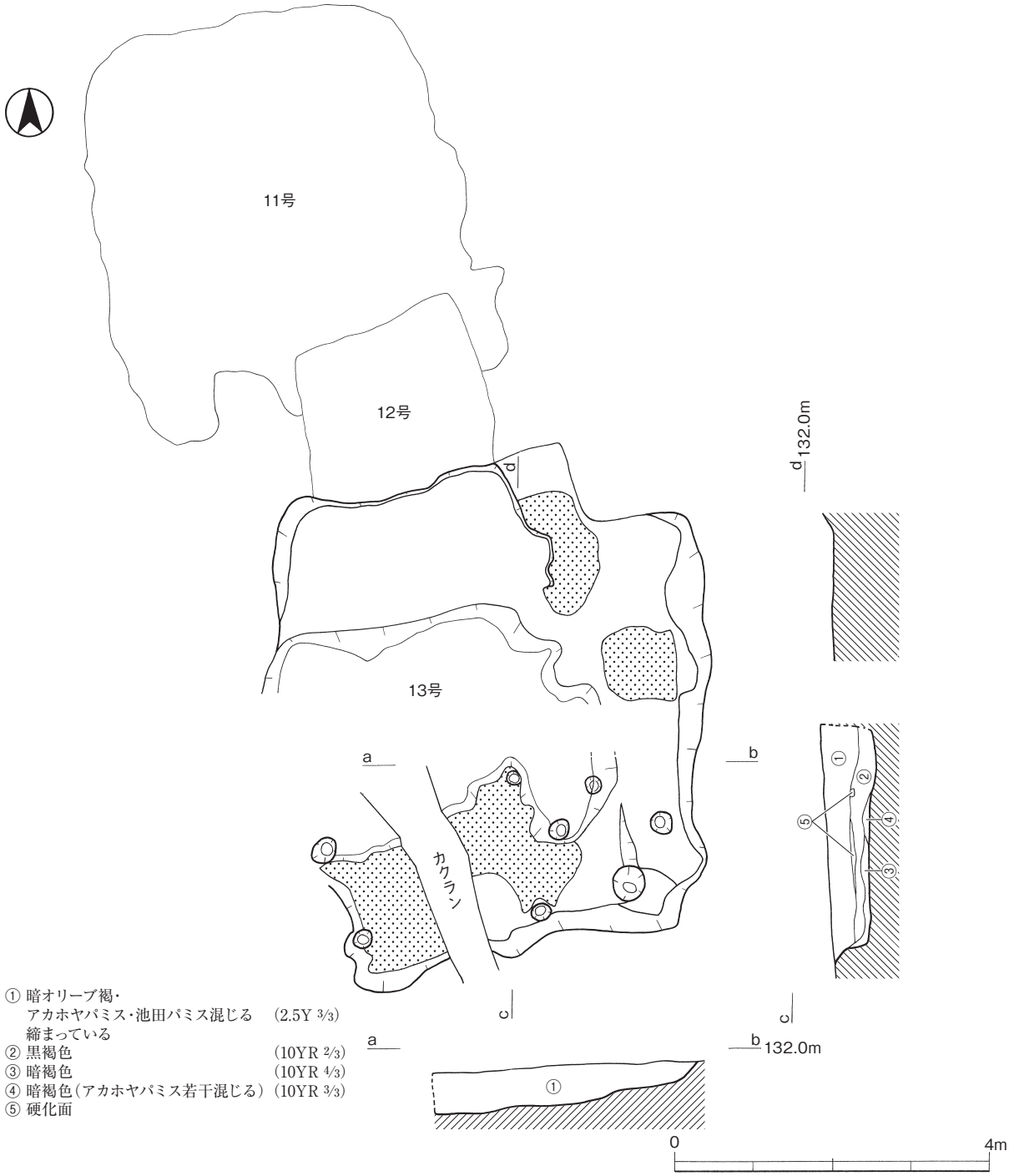
第79図　12号竪穴住居跡

12号竪穴住居跡（第79図）

C－16・17区，Ⅲa層で検出された。平面形は長軸約236cm×短軸約210cmの方形である。北側が11号住居，南側が13号住居と切り合い関係にある。このため全体のプランがはっきりしない。この住居跡は床面と考えられる硬化面のみが検出された。したがって，竪穴住居跡として報告する。検出面から床面までの深さは約４cmと非常に浅い。この住居跡から出土した遺物はなかった。

第21表　竪穴住居跡の形状について（２）

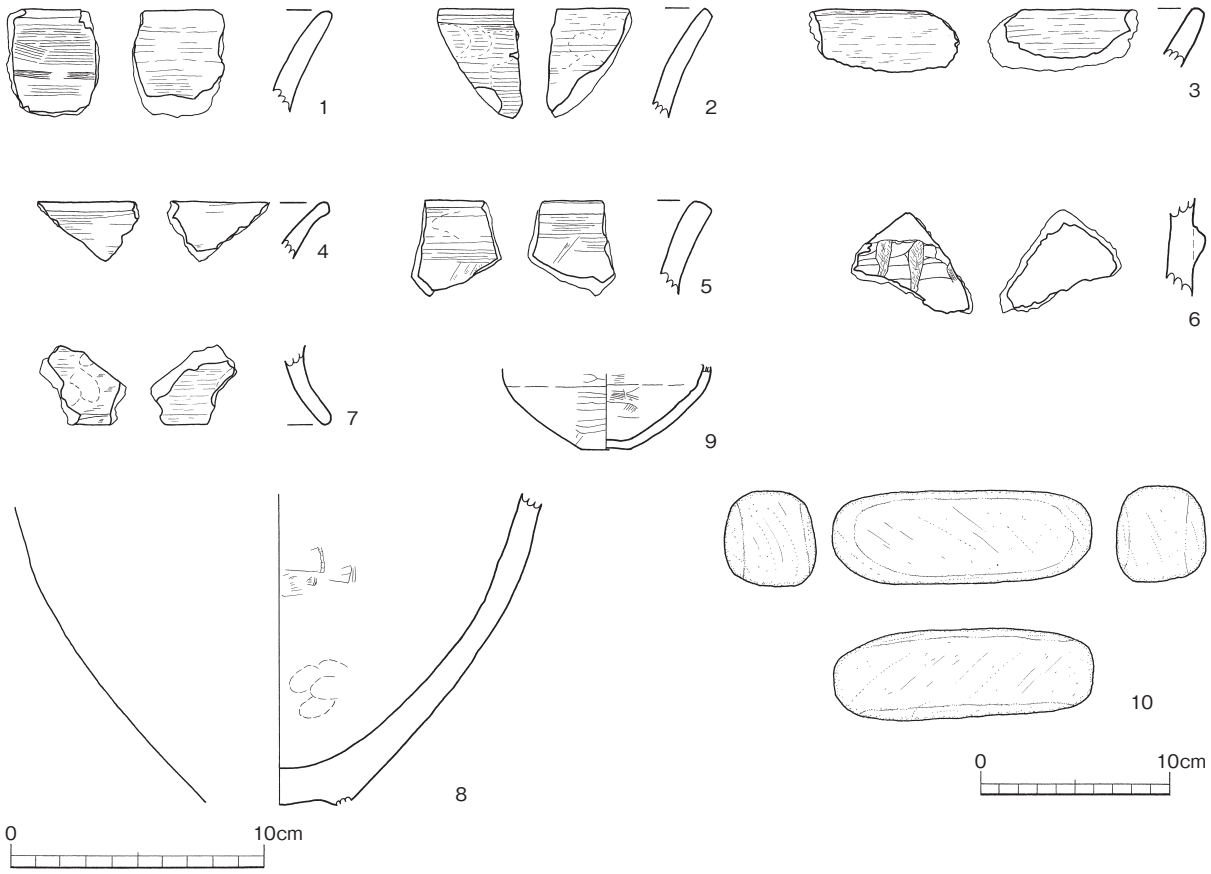
遺構名	検出区	検出面	形状	張り出し	上面（cm）		深さ	長軸の方向	張り床	ピットの数
					長軸	短軸	cm			
21 号竪穴住居跡	C,D-17	Ⅲａ	不定形	3	280	200	22	N-85-E	○	5
22 号竪穴住居跡	D-17・18	Ⅲａ	不定形	0	520	360	20	N-72-E	○	6
23 号竪穴住居跡	B・C-18	Ⅲａ	不定形	2	500	244	20	N-8-W	○	7
24 号竪穴住居跡	C-17・18	Ⅲａ	不定形	2	434	370	38	N-6-W	○	3
25 号竪穴住居跡	D-17	Ⅲａ	不定形	0	300	260	54	N-65-W	○	2
26 号竪穴住居跡	C-18	Ⅲａ	不定形	3	310	146	26	N-18-W	○	7
27 号竪穴住居跡	B-19	Ⅲａ	不定形	1	不明	不明	不明	不明	○	0
28 号竪穴住居跡	C-19	Ⅲａ	不定形	1	260	180	14	N-74-E	○	5
29 号竪穴住居跡	C-19・20	Ⅲａ	円形	0	150	120	不明	N-47-W	○	3
30 号竪穴住居跡	A・B-20	Ⅲａ	不定形	3	530	不明	68	N-38-W	○	0
31 号竪穴住居跡	C・D-20	Ⅲａ	円形	0	660	504	38	N-83-W	○	20
32 号竪穴住居跡	B-20・21	Ⅲａ	不定形	0	314	192	28	N-16-W	○	0
33 号竪穴住居跡	B-21	Ⅲａ	不定形	1	480	358	20	N-4-W	○	6
34 号竪穴住居跡	A・B-21	Ⅲａ	不定形	0	312	162	40	N-8-E	○	0
35 号竪穴住居跡	C-21	Ⅲａ	不定形	1	150	140	48	N-72-W	○	1
36 号竪穴住居跡	C・D-20・21	Ⅲａ	不定形	0	516	360	54	N-9-E	○	0
37 号竪穴住居跡	A・B-21・22	Ⅲａ	不定形	4	560	520	不明	N-87-W	○	6
38 号竪穴住居跡	B・C-22・23	Ⅲａ	不定形	1	850	675	55	N-15-W	○	32
39 号竪穴住居跡	C・D-21・22	Ⅲａ	不定形	1	458	350	70	N-13-W	○	33
40 号竪穴住居跡	C,D-22	Ⅲａ	不定形	0	310	240	54	N-18-E	○	6
41 号竪穴住居跡	A-23	Ⅲａ	花弁	2	500	94	不明	N-19-W	○	0
42 号竪穴住居跡	B-22・23	Ⅲａ	花弁	6	714	550	28	N-4-W	—	0
43 号竪穴住居跡	A,B-24	Ⅲａ	花弁	4	646	280	62	N-7-W	○	0
44 号竪穴住居跡	B・C-23・24	Ⅲａ	花弁	6	720	680	34	N-9-W	○	5
45 号竪穴住居跡	C-24	Ⅲａ	花弁	4	530	492	48	N-87-W	○	0
46 号竪穴住居跡	C・D-23・24	Ⅲａ	花弁	6	700	594	48	N-16-W	○	4
47 号竪穴住居跡	C-31	Ⅲａ	花弁	3	484	410	48	N-24-W	○	15
48 号竪穴住居跡	B-33	Ⅲａ	方形	0	532	522	35	N-6-W	○	4
49 号竪穴住居跡	A-33・34	Ⅲａ	方形	0	508	165	20	N-18-W	○	8
50 号竪穴住居跡	B-33・34	Ⅲａ	円形	0	430	320	50	N-14-W	—	0
51 号竪穴住居跡	A・B-34	Ⅲａ	不定形	1	308	290	21	N-2-E	○	0
52 号竪穴住居跡	B-34・35	Ⅲａ	方形	0	415	330	20	N-90-E	○	7
53 号竪穴住居跡	C-33	Ⅲａ	方形	0	368	190	32	N-74-E	○	6
54 号竪穴住居跡	C-33・34	Ⅲａ	方形	0	416	410	50	N-7-W	○	2
55 号竪穴住居跡	C-33・34	Ⅲａ	不定形	0	482	90	60	N-20-W	○	1
56 号竪穴住居跡	C-33・34	Ⅲａ	不定形	0	不明	不明	20	不明	○	4
57 号竪穴住居跡	C-35	Ⅲａ	方形	0	338	322	不明	N-88-W	○	0
58 号竪穴住居跡	C-35	Ⅲａ	不定形	0	240	140	20	不明	○	9
59 号竪穴住居跡	A・B-36	Ⅲａ	方形	0	498	460	28	N-24-W	○	10
60 号竪穴住居跡	B-36	Ⅲａ	不定形	0	280	230	10	N-10-E	○	7
61 号竪穴住居跡	C-36	Ⅲａ	不定形	0	350	150	29	N-6-E	○	0
62 号竪穴住居跡	C-36	Ⅲａ	不定形	0	310	102	25	N-5-E	○	0
63 号竪穴住居跡	A・B-35	Ⅲａ	方形	0	300	240	20	N-20-W	○	0



第80図　13号竪穴住居跡

13号竪穴住居跡（第80図）

C－17区，Ⅲa層で検出された。平面形は長軸約580㎝×短軸約520㎝の方形である。この住居の南半分は，平成18年度の発掘調査時で検出された部分である。住居のほぼ中央部の南方向に旧農業用水パイプがあり，削平を受けていた。削平部分をトレンチ代わりにして，調査を進めた。検出面から床面までの深さは約30㎝である。住居中央部で一段落ち込みがあり，検出面から約50～60㎝の所でこの住居の床面と考えられる硬化面が明瞭に残存し広がっていた。この住居の貼り床の特徴は掘り込みを埋めた後に貼り床を構築していることである。遺物は成川式の甕や壺等が



第81図　13号竪穴住居跡出土遺物

出土し，接合作業等を経て10点を図化した。

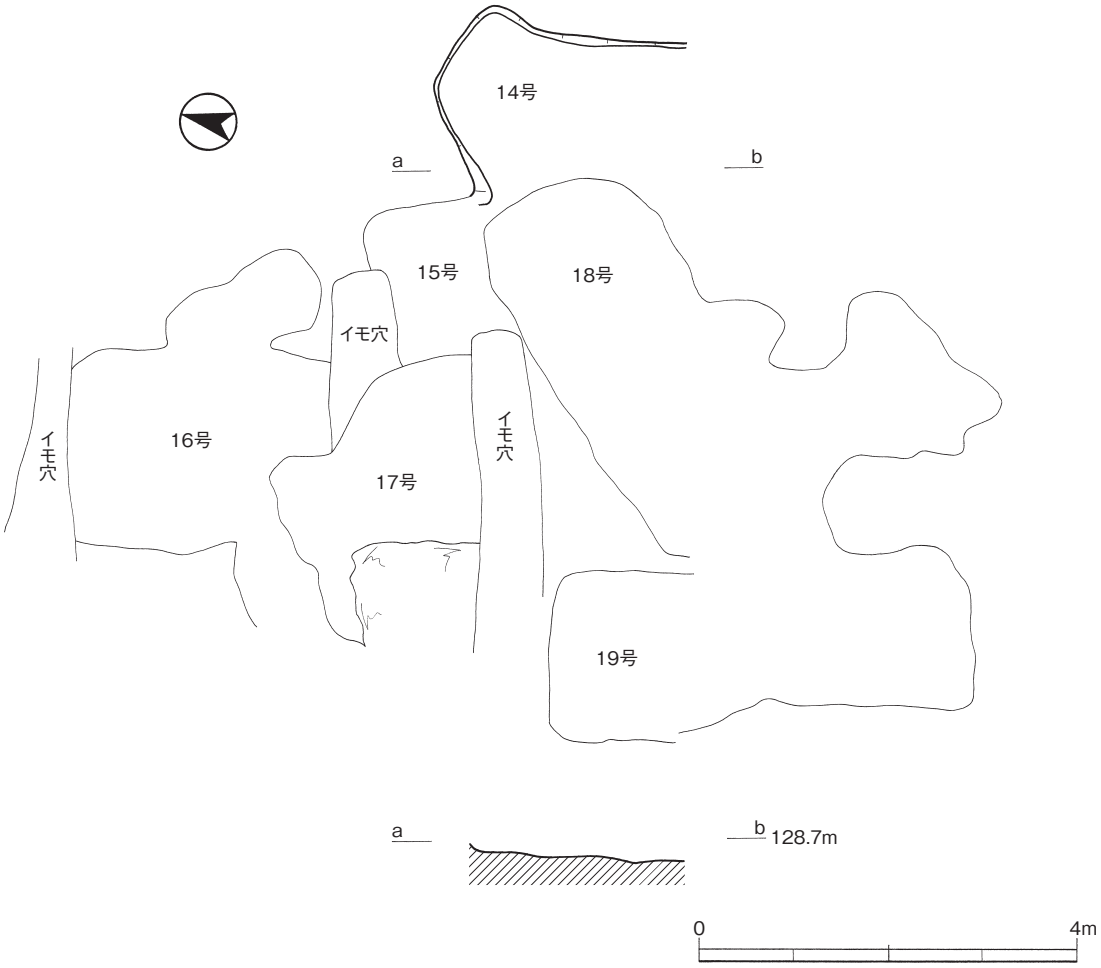
13号竪穴住居跡出土遺物（第81図　1～10）

1～5は甕形土器の口縁部である。1・2は頸部から口唇部に向かって外反し調整は内外面ともナデで整形されている。6は甕形土器の胴部である。布目刻みの突帯を有する。7は甕形土器の脚部である。8は甕形土器の胴部から底部である。外面はナデで調整されている。内面にはススの痕があり，煮炊きに使用されていたことが窺える資料である。9は小型丸底壺の胴部から底部である。調整は内外面ともにミガキで調整している。10は砥石である。

第22表　13号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図	住居 NO	番号	器種	部位	口径	底径	器高	調整・文様		色調		胎土	備考
					cm	cm	cm	外面	内面	外面	内面		
81	13	1	甕	口縁部	－	－	－	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	石英，長石，角閃石	－
		2	甕	口縁部	－	－	－	ナデ	ナデ	にぶい橙	橙	石英，長石，角閃石	－
		3	甕	口縁部	－	－	－	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	石英，長石，角閃石	礫を多く含む
		4	甕	口縁部	－	－	－	ナデ	ナデ	赤褐	赤褐	長石，角閃石	－
		5	甕	口縁部	－	－	－	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい褐	石英，長石，角閃石	－
		6	甕	胴部	－	－	－	布目刻	ナデ	にぶい赤褐	明赤褐	石英，長石，角閃石	布目刻突帯
		7	甕	脚部	－	－	－	ナデ	ナデ	明赤褐	明赤褐	石英，長石，角閃石	－
		8	甕	胴～底部	－	5.8	－	丁寧なナデ	ナデ	赤褐	赤褐	石英，長石，角閃石	－
		9	小型丸底壺	胴～底部	－	2	－	ミガキ	ミガキ	橙	橙	石英，長石，角閃石	－

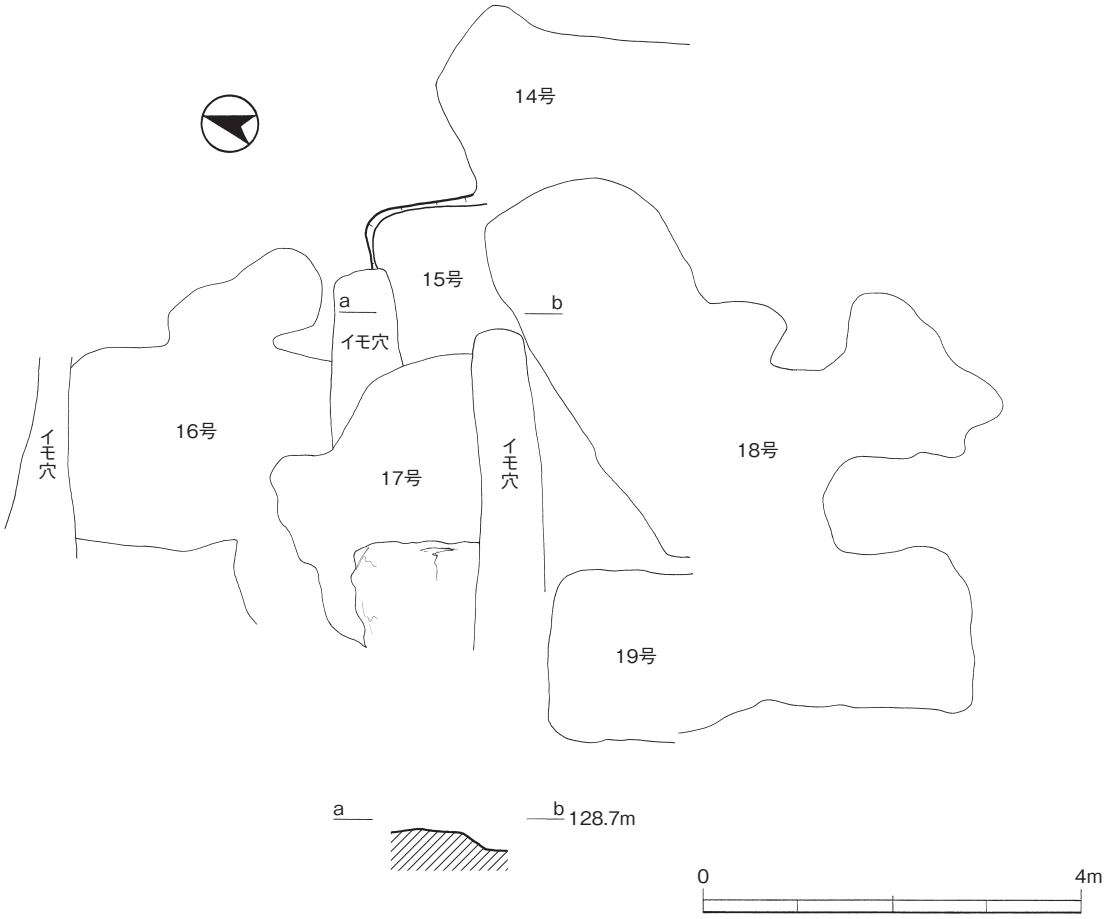
挿図	住居 NO	番号	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
					cm	cm	cm	g	
81	13	10	砥石	砂岩	13.7	5.1	4.8	5.62	－



第82図　14号竪穴住居跡

14号竪穴住居跡（第82図）

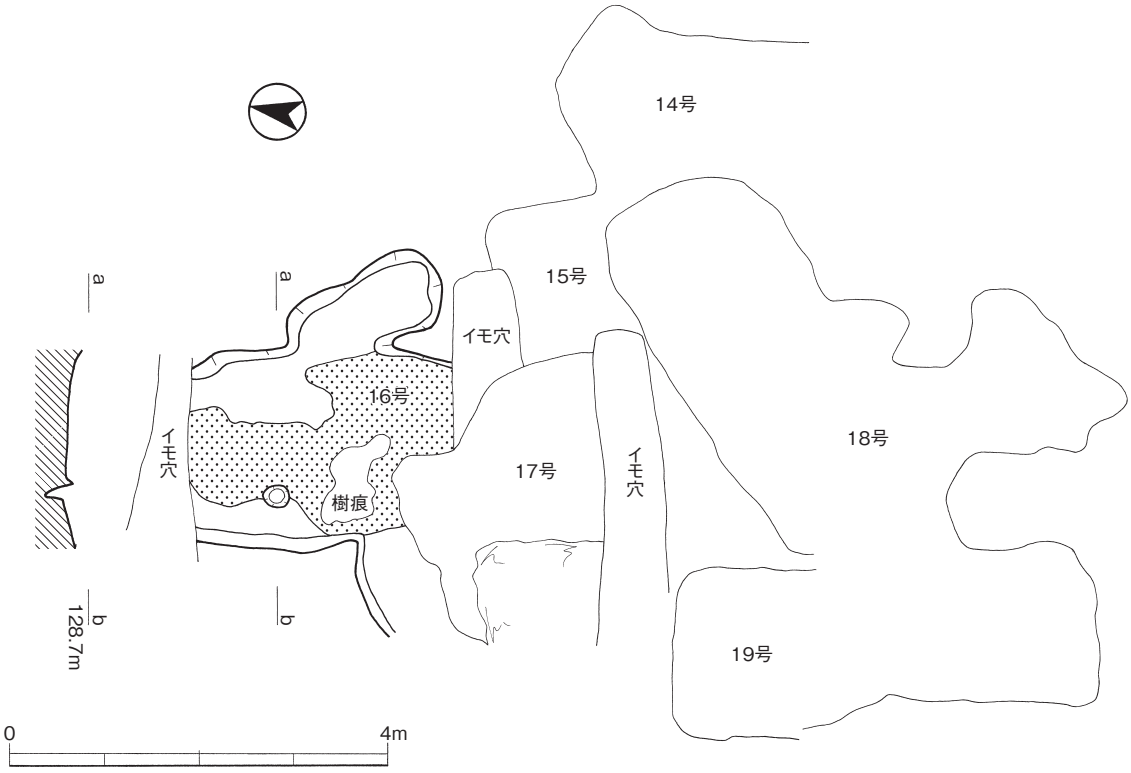
Ｂ－17区，Ⅲａ層で検出された。平面形は長軸約220㎝×短軸約200㎝の不定形である。この住居の西側は，15号住居，18号住居と切り合い関係にある。掘り下げていくうちに，この住居の床面と考えられる硬化面が検出された。したがってこの遺構を竪穴住居跡として報告する。検出面からの深さは，約10㎝である。時期の新旧は，埋土の様子から18号竪穴住居跡よりは古く15号竪穴住居跡よりは新しいと考えられる。この住居跡から出土した遺物はなかった。



第83図　15号竪穴住居跡

15号竪穴住居跡（第83図）

Ｂ－17区，Ⅲａ層で検出された。平面形は長軸約120㎝×短軸約60㎝の不定形である。また，西側は17号竪穴住居跡19号竪穴住居跡と切り合い関係にある。この遺構も，14号竪穴住居跡と同様に，掘り下げていくうちに，この住居の床面と考えられる硬化面が検出された。したがって，この遺構も竪穴住居として報告する。検出面から床面までの深さは約８㎝と浅い。この住居から出土した遺物はなかった。



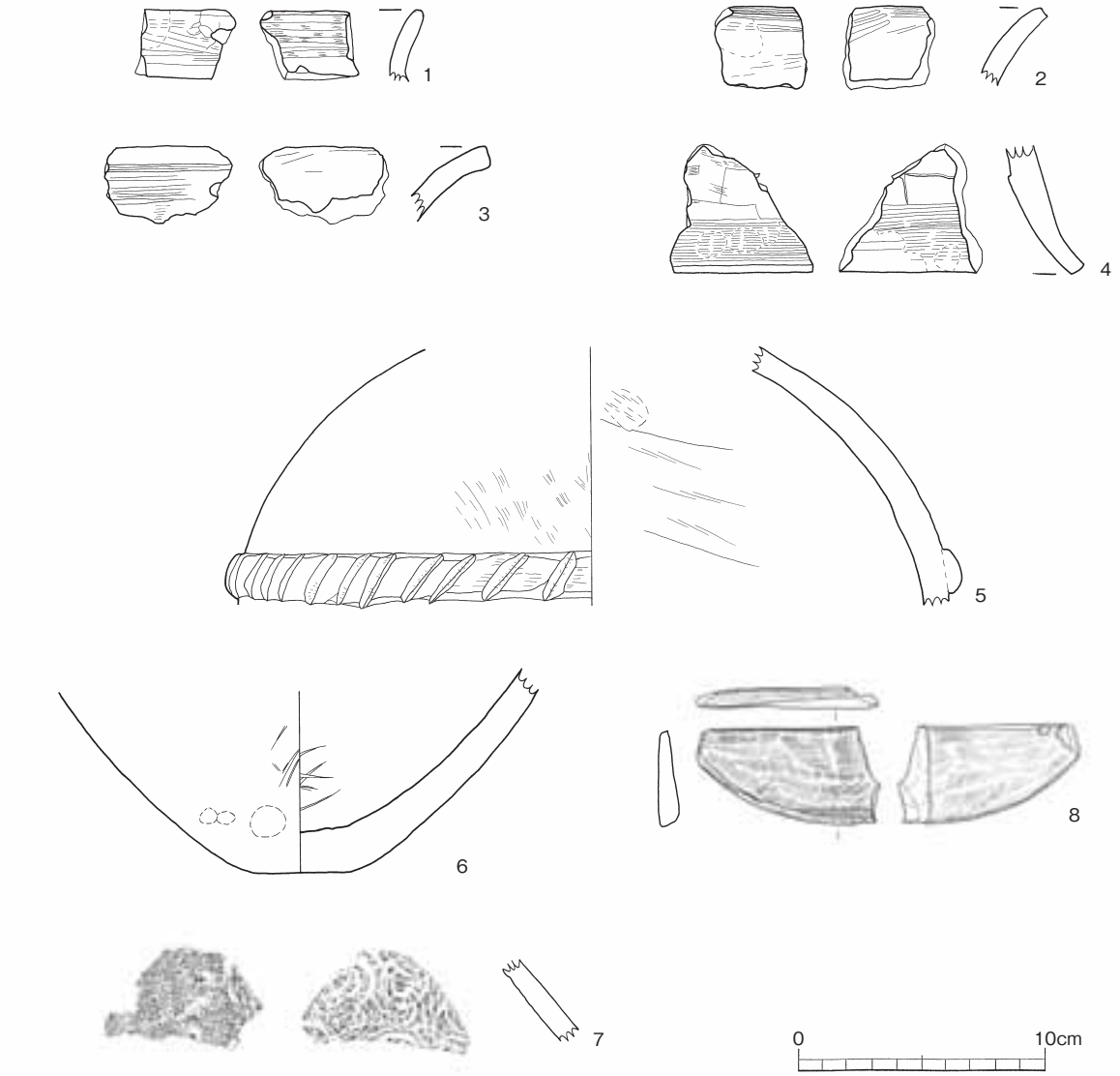
第84図　16号竪穴住居跡

16号竪穴住居跡（第84図）

Ｂ－16・17区，Ⅲａ層から検出された。平面形は，長軸約274㎝×短軸約210㎝の不定形である。南側は15号・17号住居と切り合い関係にある。また，イモ穴が２基あり削平されていた。検出面から床面までは約42㎝である。東側は花弁状住居の花弁部分の様相を呈している。住居のほぼ中央部に床面と思われる硬化面が明瞭に残存し，広がっていた。床面からは，ピットが１基検出された。この住居からは，成川式土器の土器片が出土し，接合作業の結果７点の土器片と１点の石器を図化した。

16号住居出土遺物（第85図　１～８）

１・２は甕形土器の口縁部である。２は口唇部がやや外反する器形であると思われる。器面調整は内外面ともナデで調整されている。３は壺形土器の口縁部である。４は甕形土器の脚部である。内外面ともナデで調整されている。５は壺形土器の肩部であり，突帯を有するものである。突帯は幅がやや広く，棒刻みの調整が施されている。内外面とも丁寧なナデによる調整が施されている。６は壺形土器の底部である。底面は約3.5㎝であり，全体の大きさよりも底面積が小さい。器面調整は内外面ともナデである。７は須恵器である。８は石包丁である。

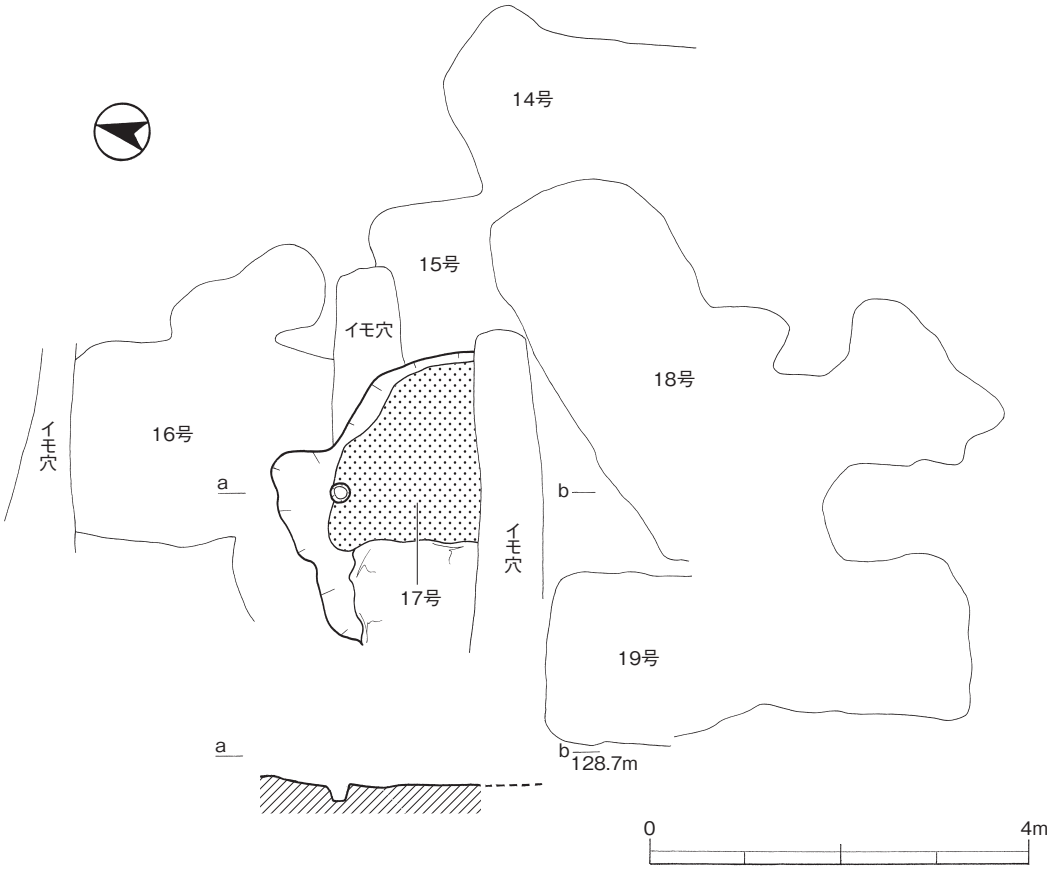


第85図　16号竪穴住居跡出土遺物

第23表　16号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図	住居 NO	番号	器種	部位	口径	底径	器高	調整・文様		色調		胎土	備考
					cm	cm	cm	外面	内面	外面	内面		
85	16	1	甕	口縁部	―	―	―	ナデ	ナデ	暗赤褐	にぶい赤褐	石英，長石，角閃石	―
		2	壺	口縁部	―	―	―	ナデ	ナデ	暗赤褐	暗赤褐	石英，長石，角閃石	―
		3	壺	口縁部	―	―	―	ナデ	ナデ	橙	にぶい黄橙	石英，長石，角閃石	―
		4	甕	脚部	―	―	―	ナデ	ナデ	橙	橙	石英，長石，角閃石	礫を含む
		5	壺	肩部	―	―	―	ナデ	ナデ	赤褐	明赤褐	石英，長石，角閃石	棒刻目突帯
		6	壺	底部	―	3.5	―	ナデ	ナデ	明黄褐	明赤褐	石英，長石，角閃石	―
		7	甕	胴部	―	―	―	―	―	灰	灰	―	須恵器

挿図	住居 NO	番号	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
					cm	cm	cm	g	
85	16	8	石包丁	ホルンフェルス	4	7.4	0.9	10	―



第86図　17号竪穴住居跡

17号竪穴住居跡（第86図）

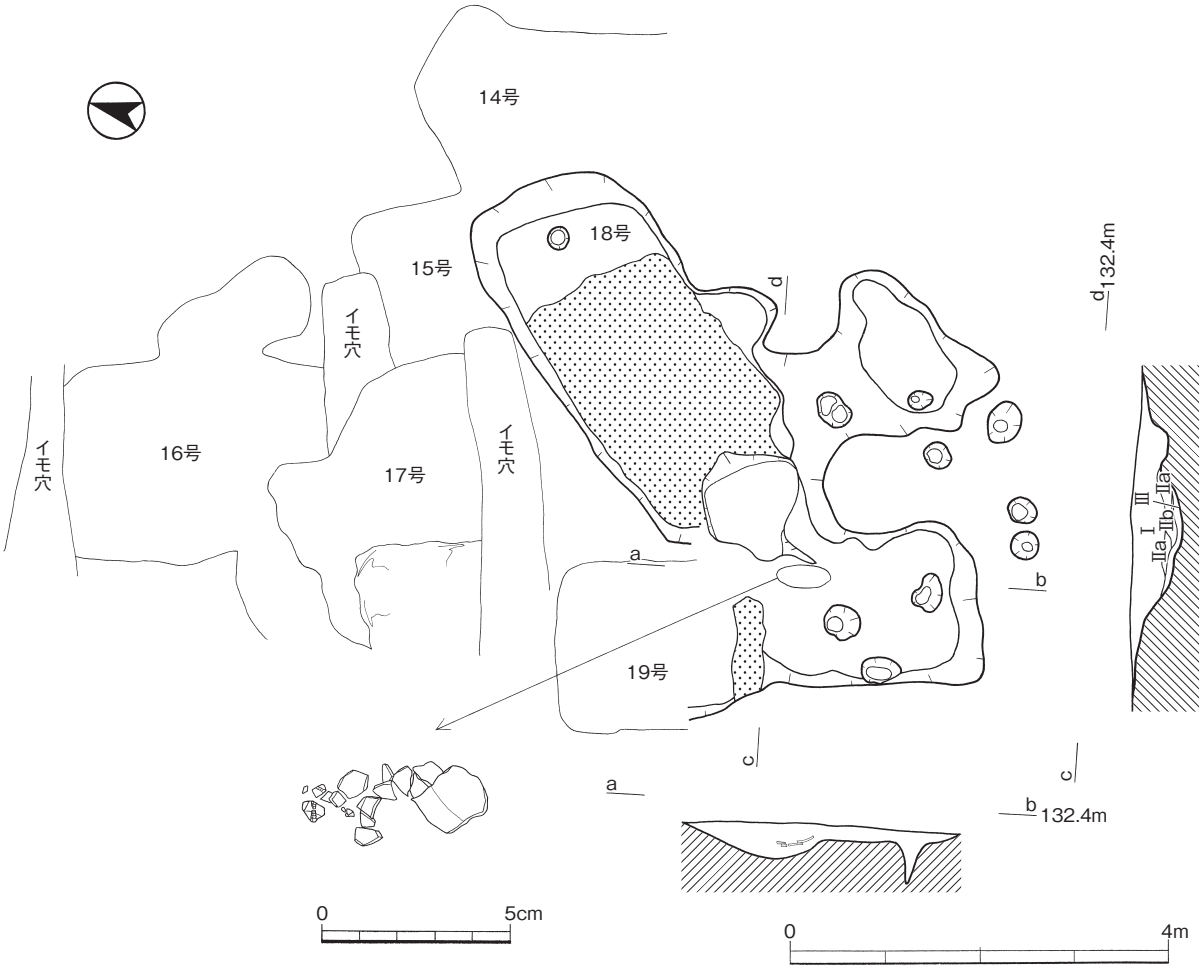
Ｂ－17区，Ⅲa層から検出された。平面形は，長軸約226㎝×短軸約200㎝の不定形である。北側上部は16号住居南側が18号住居と切り合っている。西側には落ち込みがあり，また南側にはイモ穴のため削平を受けており，全体のプランをつかむことはできなかった。

18号竪穴住居跡（第87図）

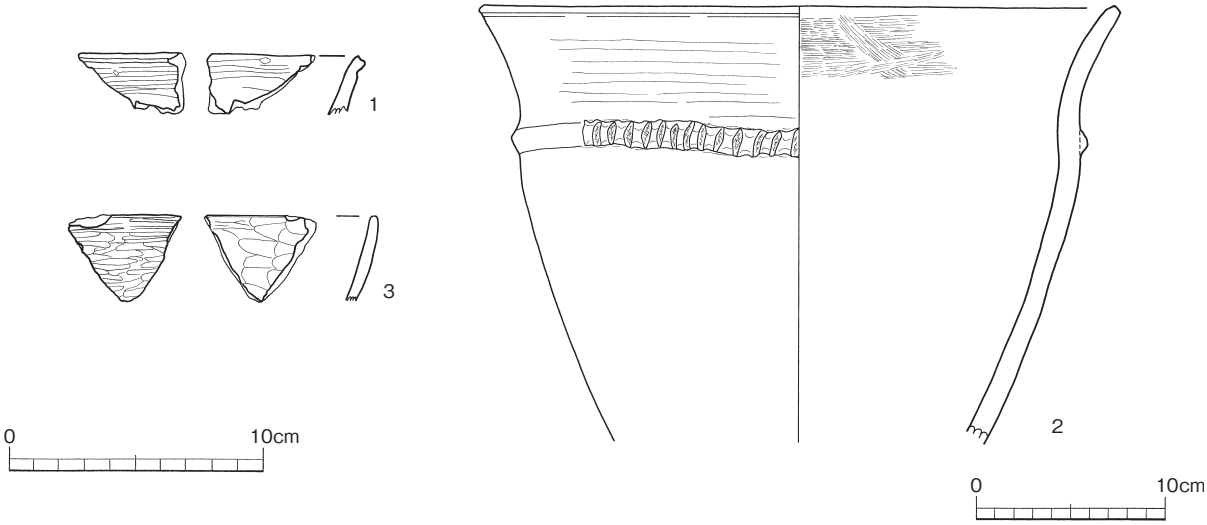
Ｂ－17区，Ⅲa層で検出された。平面形は，長軸約360㎝×短軸約300㎝の不定形である。この竪穴住居跡は，北側半分は平成13年度に検出され，南半分が平成18年度に検出され，図面上で合成し復元したものである。形状は不定形であるが，北西側，北東側，南側と張り出しをもつ住居であることが確認できた。検出面から床面までの深さは約14㎝である。この住居は中央部で一段落ち込みがあり，この住居からは，成川式の甕形土器や高坏等が出土し，接合作業を経て３点を図化した。

18号竪穴住居跡出土遺物（第88図　１～３）

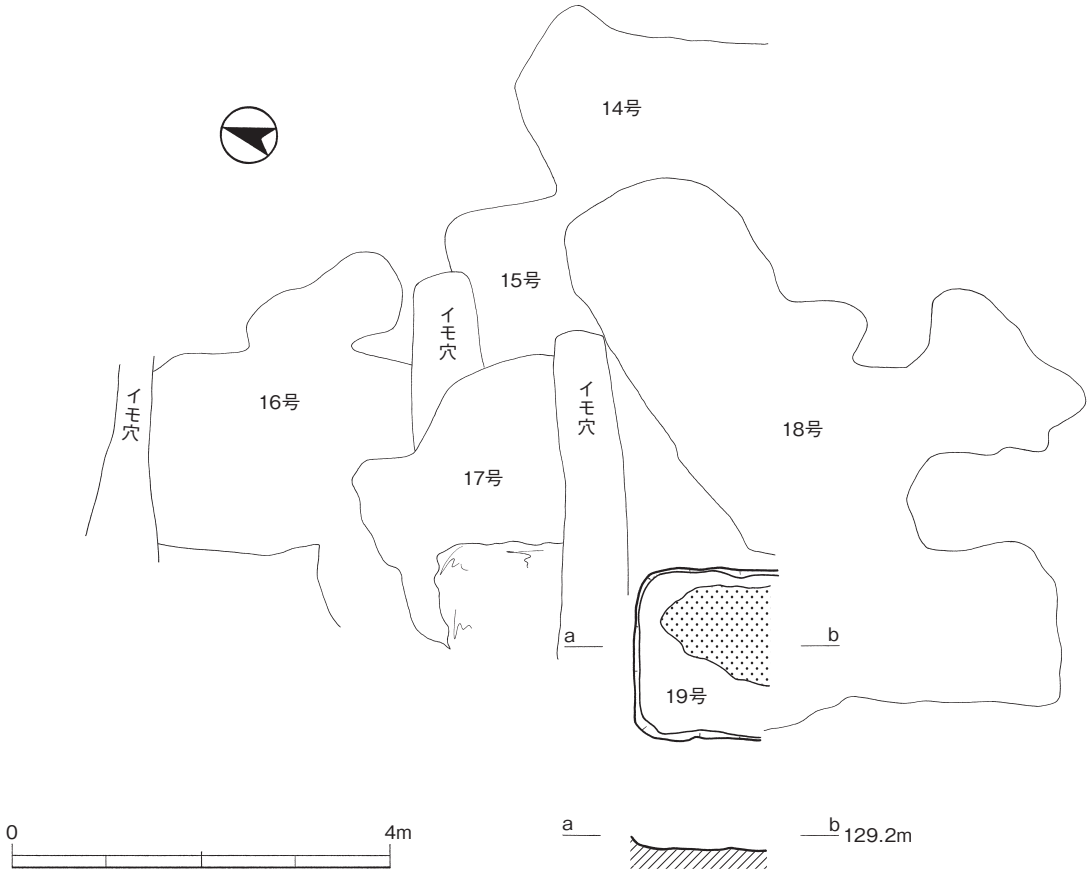
１は小型の甕の口縁部で，口唇部を肥厚させたつくりである。２は甕形土器である。胴部に突帯をもち突帯部から口唇部にかけて外反する。全体的に厚みがあり，重量がある。突帯部から口唇部にかけては工具ナデで，突帯部は布目刻みである。３は高坏の坏部であり調整は内外面ともにミガキである。



第87図　18号竪穴住居跡



第88図　18号竪穴住居跡出土遺物



第89図　19号竪穴住居跡

19号竪穴住居跡（第89図）

Ｂ－17区，Ⅲa層で検出された。平面形は長軸約180㎝×短軸約140㎝の方形である。南側は20号住居によって削平されている。検出面から床面までの深さは約４㎝である。掘り下げていくと，この住居の床面と考えられる硬化面が明瞭に残存し広がっていた。この住居からは，出土した遺物はなかった。

第24表　18号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図	住居 NO	番号	器種	部位	口径	底径	器高	調整・文様		色調		胎土	備考
					㎝	㎝	㎝	外面	内面	外面	内面		
88	18	1	甕	口縁部	－	－	－	ナデ	ナデ	黒褐	明褐	石英	－
		2	甕	口縁～胴部	34	－	－	ナデ	ナデ	明赤褐	橙	石英，雲母，角閃石	－
		3	高坏	坏部	－	－	－	ミガキ	ミガキ	赤褐	明褐	長石，雲母	－